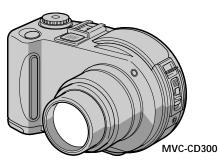
3-067-951-**02** (1)

デジタルスチルカメラ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MVC-CD300

CD Mavica

MVC-CD200/CD300

必ずお読みください

• 本機は8 cm CD-R/CD-RWをメディアとして使用するデジタルスチルカメラです。なお、本書では8 cm CD-R/CD-RWを総称してディスクと表記しています。特に区別が必要な場合のみ、CD-RまたはCD-RWと表記します。
使用できるディスクについては15ページを、ディスクの取り扱い上のご注意については88ページをご覧ください。

• 確実な記録のためには、マビカディスク*をおすすめします。
• データの書き込み中は、ACCESSランプが赤く点灯します。この間は本体に振動や衝撃を与えないでください。

* マビカディスクとは、Mavicaロゴの入った8 cm CD-R／CD-RWのことです。

• この取扱説明書は、MVC-CD200とMVC-CD300の2機種に共通です。本機をお使いになる前に、お買い上げになった機種を確認してください。
• この取扱説明書のイラストは、MVC-CD300を使用しています。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの撮影内容の補償については、ご容赦ください。

画像の互換性について

• 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“ Design rule for Camera File system ”に対応しています。
• 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／編集した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

レーザー安全基準について

この装置は、レーザーに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、ディスクが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんのでご安心してお使いください。
- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。結露が起きたときは、87ページの記載に従って結露を取り除いてからご使用ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

長時間使用時のご注意

本体が熱くなることがありますのでご注意ください。

可動式レンズについて

本機は可動式レンズを採用しております。レンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようにご注意ください。

こんなことができます

本機は8 cm CD-R**または**8 cm CD-RW**に静止画や動画を記録できるデジタルスチルカメラです**

撮ってすぐに画像をその場で見ることができます

静止画を撮る：19ページ
静止画を見る：28ページ
画像を消す：77ページ

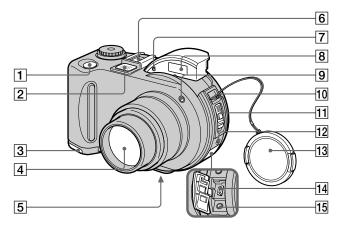
パソコンに取り込めます

撮影した画像をパソコンに取り込み、パソコンのソフトウェアを使って画像加工をしたり、Eメールに添付したりできます。CD-ROMドライブで画像を取り込む場合、ファイナライズ（32ページ）を行ってから見ます。

ディスクに対して必要な操作の流れ図

目次

各部のなまえを確認する

使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

1 **シャッターボタン**（19、26）

2 **内蔵マイク**
撮影時触れないようにする。

3 **バッテリーカバー**（8）

4 **レンズ**

5 **三脚用ネジ穴（底面）**
ネジの長さが6.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

6 **アクセサリーシュー**

7 **調光窓**
フラッシュ撮影時にふさがないようにする。

8 **フラッシュ**（24）

9 **セルフタイマーランプ／AF（エーエフ）イルミネーター**（23、25）

10 **ベルト/レンズキャップ取り付け部**

11 **ディスクカバーOPEN（オープン）レバー**（15）

12 ACC（アクセサリー）**端子**
外部フラッシュなどをつなぎます。

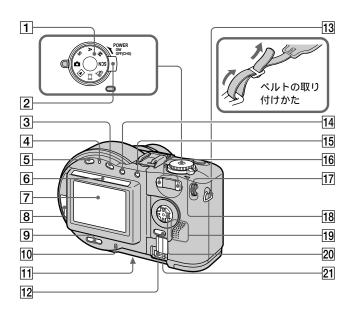
13 **レンズキャップ（付属）**

14 USB（ユーエスビー）**端子**（39）

15 A/V OUT（エーブイ アウト）（MONO（モノ））**端子**（76）
オーディオ出力はモノラルになります。

カールツァイスレンズ搭載（MVC-CD300**のみ**）

本機はカールツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発したMTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

* Modulation（モジュレーション） Transfer（トランスファー） Function（ファンクション）/Factor（ファクター）の略。
被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

1 **モードダイヤル**（47）

2 POWER**スイッチ**（13）

3 **[±] ボタン**（67）

4 ⚡/CHG**ランプ**（9、25）

5 FOCUS**ボタン**（66）

6 **外光採入窓**
太陽光などが入ると液晶画面がより明るくなります。

7 **液晶画面**

8 **ディスク窓**

9 DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFF**ボタン**（23）

10 ACCESS**ランプ**（19）

11 **リセットボタン**（96）

12 DC IN**端子カバー**／DC IN**端子**（9、12）

13 **ベルト取り付け部**

14 **[•]（スポット測光）ボタン**（71）

15 AE LOCK**ボタン**（56）

16 **ズーム**W/T**ボタン**（22）

17 **ジョグダイヤル**（49）

18 POWER ON/OFF（CHG）**ランプ**（13）

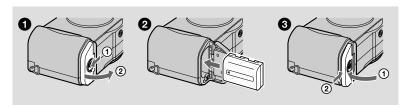
19 **スピーカー**

20 **コントロールボタン**（13、47）

21 MENU**ボタン**（48）

電源を準備する

バッテリーを本体に入れる

本機の電源には“インフォリチウム”バッテリー*（Mシリーズ）NP-FM50（付属）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム”バッテリーについて、詳しくは89ページをご覧ください。

❶ バッテリーカバーを開ける。

バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開けます。

❷ バッテリーを入れる。

バッテリーの▲マークを奥にして入れます。

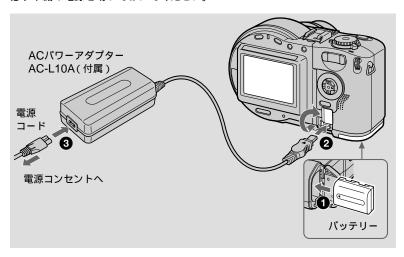
❸ バッテリーカバーを閉める。

バッテリーを取り出す

バッテリーカバーを開け、バッテリー取りはずしレバーをずらして取り出してください。
取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

* **InfoLITHIUM M SERIES（“インフォリチウム”）バッテリーとは**
InfoLITHIUM M SERIES（“インフォリチウム”）に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーです。本機はInfoLITHIUM M SERIES（“インフォリチウム”）対応です。“InfoLITHIUM（インフォリチウム）”はソニー株式会社の商標です。

バッテリーを充電する

本機の電源が入っていると、バッテリーを充電できません。
必ず本機の電源を切っておいてください。

1 バッテリーを本体に入れる。

2 DC IN端子カバーを開け、▲マークを上にして、本機のDC IN端子につなぐ。

3 電源コードをACパワーアダプターとコンセントにつなぐ。

充電が始まると、液晶画面の上の⚡/CHGランプがオレンジ色に点灯します。
充電が終わると、⚡/CHGランプが消えます（**満充電**）。

バッテリーの充電が終わったら

ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

海外でも充電できます

詳しくは101ページをご覧ください。

バッテリー残量時間表示

撮影／再生できる残り時間を液晶画面に表示します。
使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。
室温10°C～30°Cで充電することをおすすめします。

電源を準備する（つづき）

バッテリーNP-FM50について

寒冷地での撮影や液晶バックライトを使っての撮影では使用時間が短くなります。寒冷地でお使いになる場合は、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前に本機に取り付けてください。カイロをお使いの場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。

充電中の⚡/CHGランプについて

以下の場合、⚡/CHGランプが点滅することがあります。
• バッテリーが故障しているとき（96ページ）
以下の場合、⚡/CHGランプが点灯しません。
• バッテリーが正しく取り付けられていないとき

充電時間

バッテリー	満充電時間
NP-FM50（付属）	約150分

使い切ったバッテリーを25℃で充電したときの時間です。

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

静止画を撮影／再生するとき

	NP-FM50（付属）	
	使用時間	撮影／再生枚数
連続撮影時*	約75分	約800枚
連続再生時**	約120分	約1000枚

満充電して25℃で使用したときの場合。
画像サイズが640×480、画質がスタンダード、撮影モードが通常撮影の場合。
*　約5秒ごとに撮影
** 約7秒ごとにシングル画面を順番に再生

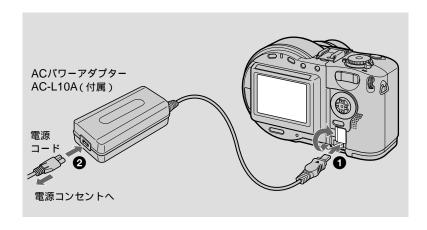
動画を撮影するとき（連続撮影時）

	NP-FM50（付属）
	使用時間
連続撮影時	約120分

満充電して25℃で使用したときの場合。
画像サイズが160×112の場合。

ご注意

- 低温で使用したり、フラッシュを使った操作、電源の入／切、ズームを繰り返すと、使用時間は短く、撮影／再生枚数は少なくなります。
- 上記の時間と枚数は目安です。使用状況によっては、これらの数字を下回ることもあります。
- バッテリー残量表示時間が充分なのに電源がすぐ切れるときは、満充電すると正しく表示されます。
- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

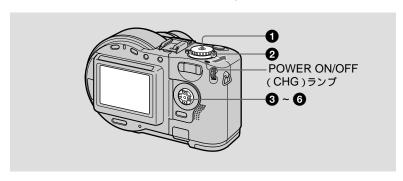
外部電源を使用する

❶ **DC IN端子カバーを開け、▲マークを上にして、本機のDC IN端子につなぐ。**

❷ **電源コードをACパワーアダプターとコンセントにつなぐ。**

自動車電源は
別売りのDCアダプター／チャージャーでご利用いただけます。

ACパワーアダプターは
コンセントの近くでお使いください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

日付・時刻を合わせる

本機をはじめて使うときは、日付・時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れるたびに日付設定画面が表示されます。

❶ **モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」、「▶」にする。**

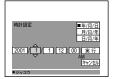
❷ **POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる。**

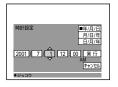
POWER ON/OFF（CHG）ランプが緑色に点灯します。
時計設定画面が表示されます。
一度設定した日付・時刻を合わせ直すときは、モードダイヤルを「SET UP」（84ページ）に合わせ、手順の❸から行ってください。

❸ **コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の●を押す。**

［年/月/日］［月/日/年］［日/月/年］の中から選びます。

❹ **コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ。**

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。

❺ コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の●を押す。

数値が確定され、次の項目に移ります。
手順❸で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示で設定してください。

❻ コントロールボタンの▶で［実行］を選び、時報と同時に中央の●を押す。

日付・時刻が設定されます。

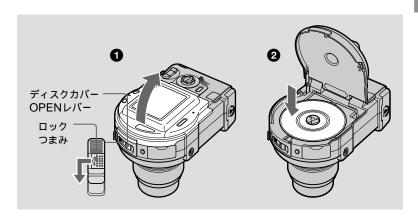
中止するには

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

ご注意

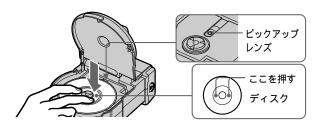
充電式ボタン電池の残量がなくなると（88ページ）、再び日付／時刻の設定画面が表示されます。このときは手順❸以降を繰り返して日付、時刻を設定しなおしてください。

ディスクを入れる

本機で使えるディスクは、右記のロゴの入った8 cmのCD-Rまたは8 cmのCD-RWのみです。

❶ **ロックつまみを左側にずらしたまま、ディスクカバーOPENレバーを下にずらす。**

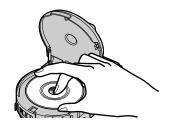
ディスクカバーが少し開いたら、手で持ち上げてください。

❷ **ディスクの印刷面を上にしてディスクを入れる。**

ディスクの中心を、ディスクがロックされるまで押し込みます。カチッと音がするまで押して、確実に装着してください。このとき、無理な力を加えないでください。また、ピックアップレンズに触れないように注意してください。

❸ **ディスクカバーを閉める。**

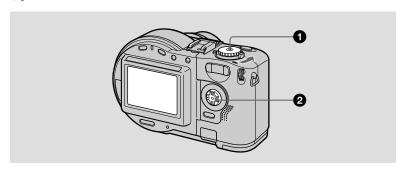
ディスクを入れる（つづき）

ディスクを取り出す

「ディスクを入れる」（前ページ）の手順❶を行い、下記のイラストのようにしてディスクを取り出してください。

ご注意

- ディスクの回転が完全に止まっていることを確認してから、ディスクを取り出してください。
- ACCESSランプが点灯しているときは、ディスクカバーを開けないでください。画像データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。
- ディスクにデータを書き込んでいるときやパソコンとUSB接続しているときは、ディスクカバーOPENレバーがロックされます。

ディスクに記録する前に ー イニシャライズ

新しいディスクまたは本機以外でファイナライズ（32ページ）したディスクを使用する前に、必ずディスクをイニシャライズしてください。
POWERスイッチを矢印の方向にずらして電源を入れ、ディスクを入れておきます。

❶ モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする。

「イニシャライズ　安定した所に置いて下さい」と表示されます。手順❷でイニシャライズを実行中は、本機に振動を与えないでください。

❷ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

イニシャライズが始まります。

中止するには

コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

一度中止した後にイニシャライズするには

ディスクカバーを開閉します。または、モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にして、コントロールボタンの▲を押してから、中央の●を押します。

ディスクに記録する前に ー イニシャライズ（つづき）

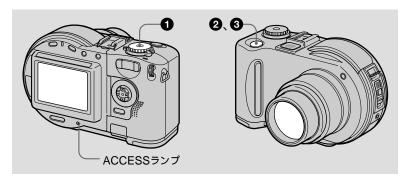
イニシャライズについて

本機でディスクに画像データを記録できるようにする操作がイニシャライズです。
画像をCD-ROMドライブで読めるようにする操作（ファイナライズ）（32ページ）を本機で行った場合は、自動的にイニシャライズも行われるので、引き続き画像の追加書き込みができます。パソコンや他機でファイナライズした場合は、画像の追加書き込みのために再びイニシャライズします。ファイナライズする以前に記録した画像ファイルはそのまま残ります。

ちょっと一言

SET UPの［ ］（ディスクツール）を選んでイニシャライズを行うこともできます（84ページ）。

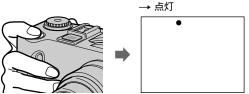
静止画を撮る

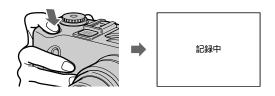
静止画をJPEG（ジェイペグ）形式で記録します。
POWERスイッチを矢印の方向にずらして電源を入れ、ディスクを入れておきます。

❶ **モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。**

❷ **シャッターを軽く押す。**

ピピッと音がします。**このときはまだ、撮影されていません。**

本機は被写体をとらえて露出・フォーカスを自動調節しています。自動調節が終わると、点滅していたAE/AFロック表示が点灯に変わります。**点灯すると撮影可能です。**

このときシャッターを離すと、撮影を中止します。

❸ シャッターを深く押し込む。

カシャッと音がして、撮影されます。
画面に「記録中」と表示され、画像がディスクに記録されます。
「記録中」の文字が消えたら、次の撮影ができます。

1枚のディスクに記録できる枚数は
55ページをご覧ください。

オートパワーオフ機能
バッテリーを電源として使用しているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。そのまま使いたいときは、POWERスイッチを矢印の方向にずらして電源を入れ直してください。ただし、USB端子やAV/OUT（MONO）端子に機器を接続している場合や、動画再生時にはオートパワーオフ機能は働きません。
（なお、スライドショーを行っているときは、バッテリーまたはACパワーアダプターのどちらを使っていても、約20分で自動的に電源が切れます。）

ディスクに書き込み中はACCESSランプが点灯します。点灯中は、本機に振動や強い衝撃を絶対に与えないでください。また、電源を切ったり、ディスクやバッテリーを取り出したり、ディスクカバーを開けたりしないでください。画像データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。

ご注意

- CD-Rでは画像を消してもディスク残量は増えません。
- CD-RWでは が液晶画面に出ている場合に限り、その時点で最新の画像を消すとディスク残量は元に戻ります。画像を加工したり、ディスクカバーを開閉したりすると は消えます。
- 明るい被写体を撮影する場合、AEロック後に液晶画面の色合いが変わることがありますが、記録される画像に影響はありません。
- ディスクの状態によってはディスクを交換した直後に「データ修復中」と表示され、撮影可能になるまで約10分かかることがあります。
- シャッターをそのまま押し込んだ場合は、自動調節後撮影します。ただし、以下のときには撮影できません。
  - 撮影状況がフラッシュが必要な状態で、ϟ/CHGランプ（7ページ）が点滅しているとき
- AEロック表示が遅い点滅に変わったときは、フォーカスが合いにくい被写体（暗い、コントラストがない）か、極端に近い被写体の可能性があります。シャッターを離して、もう1度フォーカスを合わせなおしてください。

最後に撮影した画像を確かめる（クイックレビュー）

メニューを消し（48ページ）、コントロールボタンの◀（⊜）を押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

通常の撮影モードに戻るには：シャッターボタンを軽く押す。または、もう1度◀（⊜）を押す。

画像を削除するには：1 MENUボタンを押す。2 ▶で［削除］を選んで、中央の●を押す。3 ▲で［実行］を選んで、中央の●を押す。

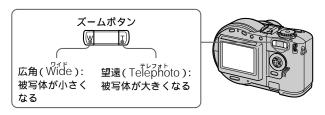
液晶画面の明るさを調節する

SET UPの［LCD明るさ］で調節します（85ページ）。
ディスクに書き込まれる画像の明るさには影響ありません。

液晶バックライトを消すには

バッテリーを長持ちさせたいときは、DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを繰り返し押してLCDバックライトを消してください（23ページ）。

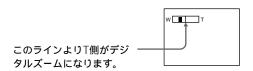
ズームする

ズーム時にレンズ部が動きます。レンズに触らないようにご注意ください。

フォーカスを合わせるために必要な被写体までの距離は

W：　約50 cm以上（MVC-CD200）
　　約50 cm以上（MVC-CD300）
T：　約60 cm以上（MVC-CD200）
　　約50 cm以上（MVC-CD300）

さらに近くを撮影するときは、67ページをご覧ください。

本機はデジタルズーム機能を搭載しています

デジタルズームは、画像をデジタル処理して拡大します。ズームが3倍を超えるとデジタルズームになります。

デジタルズームを使うと

- ズーム最大倍率は6倍になります。
- 画質は低下します。デジタルズームを使う必要がないときは、SET UPで［デジタルズーム］を［切］にします（84ページ）。
- デジタルズーム中は、AF測距枠（102ページ）は液晶画面に出ません。

ご注意

- デジタルズームは動画撮影には使えません。
- MVC-CD300では、ズーム機能が動画記録中に働きません。あらかじめズームしてから撮影してください。
- デジタルズーム中は、AF測距枠（102ページ）は液晶画面に出ません。

画面上の表示は

DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押すたびに下記の順番で切り換わります。

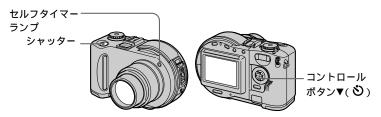
バックライトオン（表示可能なアイコンをすべて表示）
→ バックライトオン（警告表示とジョグダイヤルを使って操作可能な手動調節の数値のみ表示）
→ バックライトオフ（警告表示とジョグダイヤルを使って操作可能な手動調節の数値のみ表示）

表示される項目について詳しくは、102ページをご覧ください。

ご注意

- セルフタイマー表示と応用操作での一部の表示は消すことができません。
- 画面上の表示は記録されません。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマーを使用すると、約10秒後に撮影が始まります。

メニューを消し（48ページ）、コントロールボタンの▼（☉）を押したあと、シャッターを深く押し込みます。画面に☉（セルフタイマー）が表示され、シャッターを押してから約10秒後に撮影されます。その間、セルフタイマーランプが点滅し、ピッピッピとビープ音が鳴ります。セルフタイマーを途中で止めるには、もう1度セルフタイマーボタンを押します。

フラッシュを使って撮影する

お買い上げ時は「AUTO」（表示なし）に設定されています。撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的にフラッシュが持ち上がり発光します。この設定を変えるには、メニューを消し（48ページ）、コントロールボタンの▲（⚡）を繰り返し押し、希望のフラッシュ表示を出します。

ボタンを押すたびに、以下のように表示が変わります。
（表示なし）→⚡ →Ⓢ →（表示なし）
⚡ 強制発光：周囲の明るさに関係なく発光します。
Ⓢ 発光禁止：発光しません。
フラッシュによる撮影が終わったら、フラッシュを上から手で押して元に戻してください。

フラッシュの発光量は、メニューの［⚡±］（フラッシュレベル）で変えることができます（51ページ）。

人物の目が赤くなるのを軽減するには

SET UPの［赤目軽減］を［入］にすると、撮影前に予備発光し、目が赤く写るのを軽減します（84ページ）。［入］を選んだときは、画面上に👁が表示されます。

ご注意

- メニューの［ISO］（50ページ）が［オート］のとき、内蔵フラッシュの推奨撮影距離は0.3 m～2.5 m（MVC-CD200）または0.3 m～3.0 m（MVC-CD300）です。［オート］以外のときは、フラッシュレベルを変えても効果が得られないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）をつけていると、フラッシュの光をさえぎり、レンズの影が映る（ケラレる）ことがあります。
- 外部フラッシュ（別売り）と内蔵フラッシュは同時には使用できません。
- 赤目軽減機能では、個人差や被写体までの距離、予備発光を見ていないなどの条件により赤目の軽減効果が現れにくいことがあります。
- シャッタースピード優先モードでシャッタースピードが遅く設定されていると、赤目軽減効果は現れにくくなります。

- 明るい場面で強制発光⚡を使うとフラッシュ効果が得られにくいことがあります。
- フラッシュを充電している間は、⚡/CHGランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。
- 動画撮影時、ブラケットおよび3枚連写(59、63ページ)のときは、フラッシュが使えません(MVC-CD300のみ)。

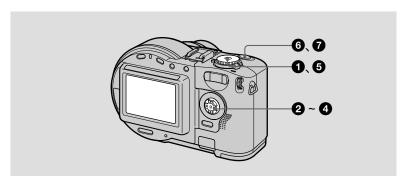
AFイルミネーターを使って撮影する

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。
SET UPの［AFイルミネーター］(84ページ)を［入］にしてください。撮影時に ON が表示され、シャッターを半押ししてからフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に発光します。

ご注意

- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。推奨距離は約0.3 m〜3.0 mです。
- シーンセレクション(58ページ)の夜景モードでは、フラッシュが強制発光⚡に設定されている場合のみ、AFイルミネーターは自動発光します。
- シーンセレクション(58ページ)の風景モードが選ばれていたり、SET UPの［コンバージョンレンズ］(85ページ)(MVC-CD300のみ)が［入］の場合、AFイルミネーターは自動発光しません。
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に光が当たらないようにお使いください。
- フォーカスプリセット(66ページ)をしているとき、AFイルミネーターは使えません。

動画を撮る

音声つきの動画をMPEG（エムペグ）形式で記録します。
POWERスイッチを矢印の方向にずらして電源を入れ、ディスクを入れておきます。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UPが表示されます。

2 コントロールボタンの▲/▼で［📷］（カメラ）を選び、▶を押す。

3 コントロールボタンの▲/▼で［動画選択］を選び、▶を押す。

4 コントロールボタンの▲/▼で［MPEGムービー］を選び、中央の●を押す。

❺ モードダイヤルを「▭」にする。

動画を撮影する準備ができました。

❻ シャッターを深く押し込む。

「録画」と表示され、画像と音声がディスクに書き込まれます。

❼ シャッターをもう1度深く押し込む。

録画が止まります。
シャッターボタンを押す前でも、一定の時間がたつと自動的に止まります。
画像サイズ320（HQ）で撮影している場合、約15秒
画像サイズ320×240で撮影している場合、約1分
画像サイズ160×112で撮影している場合、約4分
画像サイズについて詳しくは、54ページをご覧ください。

液晶画面の明るさ調節やズーム、セルフタイマーなどは

21～23ページをご覧ください。

撮影中の画面表示

DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押して、出したり消したりします。
これらの表示は記録されません。
表示される項目について詳しくは、102ページをご覧ください。

静止画を見る

❶ モードダイヤルを「▶」にする。

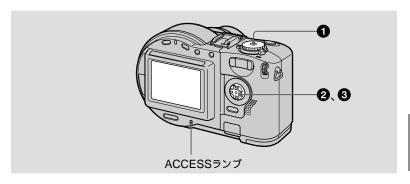
ACCESSランプが点灯し、最後に撮影した画像（静止画または動画）が表示されます。

❷ コントロールボタンの◀/▶で静止画を選ぶ。

◀：前の画像を見るとき。
▶：次の画像を見るとき。

静止画再生中の画面上の表示

DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示オン→画面表示オフ→液晶バックライトオフの順で変わります。
表示される項目について詳しくは、103ページをご覧ください。

動画を見る

❶ モードダイヤルを「▶」にする。

ACCESSランプが点灯し、最後に撮影した画像（静止画または動画）が表示されます。

❷ コントロールボタンの◀/▶で動画を選ぶ。

320（HQ）（54ページ）で撮ったとき以外は、動画は静止画よりもひとまわり小さく表示されます。

◀：前の画像を見るとき。
▶：次の画像を見るとき。

120分 320
■
21/28
00:00
MOV00022 2001 7 4 10:30PM
●サイセイ ◀▶モドル/ツギヘ ⬍オンリョウ

❸ コントロールボタンの中央の●を押す。

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生）が液晶画面に表示されます。

再生を停止するには

コントロールボタンの中央の●を押します。

高画質撮影した動画は

画像サイズ［320（HQ）］で撮影した動画（55ページ）は画面いっぱいに表示されます。

巻き戻し／早送りをするには

再生中にコントロールボタンの◀/▶を押します。通常の再生に戻すには中央の●を押します。

音量を調節する

コントロールボタンの▲/▼で調節します。

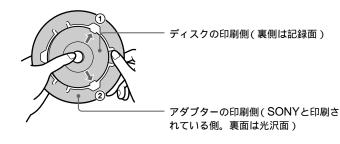
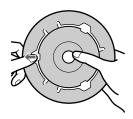
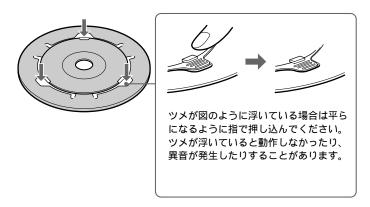
動画再生中の画面上の表示

DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示オン→画面表示オフ→液晶バックライトオフの順で変わります。
表示される項目について詳しくは、103ページをご覧ください。

パソコンで画像を見るための準備

付属の8 cm CDアダプターについて

ドライブが8 cm CDに対応していないときは、付属の8 cm CDアダプターを使用してください。

❶ ①、②の順でアダプターの2つのツメにディスクを差し込む。

❷ 3つめのツメを外側に引いて、ディスクをはめる。

❸ ディスクが3つのツメの溝に正しくはまってツメがすべて平らになっていることと、ディスクがアダプターから浮いていないことを確認する。

ご注意

- ドライブによっては、付属の8 cm CDアダプターがご使用になれない場合があります。ドライブの取扱説明書をご覧ください。
- 低速回転（8倍速以下）でご使用ください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、高温の場所へは放置しないでください。
- このアダプターはマビカディスク専用です。他の8 cm CD-R/CD-RWにはご使用になれません。

CD-ROMドライブで画像を見るための準備 ー ファイナライズ

本機で記録したディスクを、パソコンのCD-ROMドライブで再生することができます。
CD-ROMドライブで画像を見るときは、SET UPの［ファイナライズ］を実行してください。ファイナライズを実行していないディスクは、CD-ROMドライブで認識することができません。

ファイナライズについて

- 本機で記録した画像データを、CD-ROMドライブで読めるようにする操作がファイナライズです。
- 1度ファイナライズを実行したディスクでも、再びイニシャライズすれば、画像の追加書き込みができます。本機でファイナライズした場合は、自動的にイニシャライズが行われます。追加した画像をCD-ROMドライブで再生するには、もう1度ファイナライズする必要があります。
  ただし、ファイナライズを実行するたびにディスク容量が約13 MBずつ減るので、まとめてファイナライズすることをおすすめします。
- ディスクをファイナライズしないで本機から取り出しても、後でファイナライズすることができます。
- ファイナライズされたディスクをCD-ROMドライブで見る場合は、CD-ROMドライブがマルチリード（MultiRead）に対応している必要があります。

ファイナライズを実行する

❶ モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UPが表示されます。

❷ コントロールボタンの▲/▼で［ ］（ディスクツール）を選び、▶を押す。

❸ コントロールボタンの▲/▼で［ファイナライズ］を選び、▶を押す。

❹ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

「ファイナライズ　安定した所に置いて下さい」と表示されます。手順❺でファイナライズを実行中は、本機に振動を与えないでください。

パソコンで画像を見るための準備（つづき）

❺ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

ディスクがファイナライズされ、ディスク残量表示がから に、または
から に変わります。

中止するには

手順❹または❺でコントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。ファイナライズが始まると、中止することはできません。

ご注意

- ファイナライズの実行は、約1分かかります。その間は本機に振動や衝撃を与えないでください。なるべく机などの安定した場所に置いて操作してください。
- ファイナライズを実行するときは、外部電源を使用することをおすすめします（12ページ）。

ファイナライズを取り消すには ー アンファイナライズ（CD-RWのみ）

CD-RWを使用しているときは、直前に実行したファイナライズを取り消すことができます。ファイナライズを取り消すと、ファイナライズの実行で使用したディスク容量を元に戻すことができます。

❶ モードダイヤルを「」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」にする。

「アンファイナライズ　安定した所に置いて下さい」と表示されます。手順❷でアンファイナライズを実行中は、本機に振動を与えないでください。

❷ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

ディスクがアンファイナライズされ、ディスク残量表示が から に変わります。

中止するには

コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。アンファイナライズを中止した場合、そのまま画像を続けて記録することができます。

一度中止した後にアンファイナライズするには

モードダイヤルを「SET UP」にして、［ ］（ディスクツール）の［アンファイナライズ］を実行します（84ページ）。

ご注意

- ファイナライズ実行後、画像を編集したり新しい画像を記録したりすると、アンファイナライズは実行できません。
- アンファイナライズの実行は、約1分かかります。その間は本機に振動や衝撃を与えないでください。なるべく机などの安定した場所に置いて操作してください。

ちょっと一言

SET UPの［ ］（ディスクツール）を選んでアンファイナライズを行うこともできます（84ページ）。

パソコンで画像を見る

本機で撮影したデータを、パソコンで見ることができます。ここでは、一般的なパソコンでの画像の見かた、およびドライバーをインストールする方法を説明します。詳しくはパソコンや、アプリケーションソフトの取扱説明書をご覧ください。
CD-RWの画像をCD-ROMドライブまたはCD-Rドライブで見る場合は、ドライブがマルチリード（MultiRead）に対応している必要があります。お手持ちのドライブがマルチリードに対応しているかどうかはドライブのメーカーにお問い合わせください。

《推奨Windows環境》

Windowsでは以下のA、B、Cの3種類の方法で画像を見ることができます。
ここで環境をご確認の上、38ページ以降の手順をご覧ください。

A CD-ROMドライブで見る（38ページ）

ディスクをファイナライズ（32ページ）してから見ます。

OS：Microsoft Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000 Professional
上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

B USB接続で見る（39ページ）

USBの接続方法には［標準］と［PTP］の2通りがあります（86ページ）。ここでは［標準］での使いかたを説明します。2001年2月時点のパソコンのOSは［PTP］に対応していません。
対応可能になりましたら、下記のウェブサイトなどでご案内いたします。
デジタルイメージングカスタマーサポート
http://www.sony.co.jp/support-di/

付属のCD-ROMに入っているUSBドライバーとDirectCDをパソコンにインストールします。付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールすれば、ディスクをファイナライズしなくても見ることができます。詳しくは、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

OS：Microsoft Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000 Professional
上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

CPU：MMX Pentium 200 MHz以上
USB端子が標準で装備されていること
USBドライバーのインストールには、CD-ROMドライブが必要

ご注意

- 1台のパソコンで2つ以上のUSB接続をする場合、ならびにハブを使用する場合は動作保証できません。
- 同時に使用されるUSB機器によっては動作しません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

C CD-R**ドライブ**／CD-RW**ドライブで見る**（43**ページ**）

付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールすれば、ディスクをファイナライズしなくても見ることができます。Windowsの環境について詳しくは、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

《**推奨**Macintosh**環境**》

MacintoshではUSB**接続で画像を見ることはできません。**

付属のCD-ROMに入っているドライバーAdaptec UDF Volume Accessをパソコンにインストールしてから、ディスクをファイナライズして見ます。

Mac OS 8.5.1、8.6、9.0が工場出荷時にインストールされているMacintosh
QuickTime3.0以降がインストールされていること

ご注意

推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

パソコンを使用するときのご注意

ソフトウェア

- 本機で撮影したデータは以下の形式で保存されています。それぞれのファイル形式に対応したアプリケーションがパソコンにインストールされていることをご確認ください。
  静止画（テキストモード、非圧縮モード、クリップモーション以外）：JPEG形式
  動画／音声：MPEG形式
  非圧縮モードの静止画：TIFF形式
  テキストモード、クリップモーション：GIF形式
- アプリケーションソフトによっては、静止画ファイルを開くとファイルサイズが大きくなる場合があります。

パソコンで画像を見る（つづき）

- 付属のレタッチソフトなどを使って加工した画像をパソコンから本機に取り込む場合、画像形式が異なるため「ファイルエラー」表示が出たりファイルが開けない場合があります。
- アプリケーションソフトによっては、クリップモーション画像の1コマ目しか表示されない場合があります。

パソコンとの通信（Windowsのみ）

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

- WindowsおよびActiveMovie、DirectShowは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- DirectCDはAdaptec, Inc.の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

Windowsで画像を見る

動画再生時には、Real PlayerやWindows Media Playerがインストールされていることが必要です。

A CD-ROMドライブで見る

ディスクをファイナライズしておきます（32ページ）。

例：Windows Meをお使いの場合

1 パソコンを起動し、ディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れる。

2 [マイコンピュータ] を開き、ディスクを認識したドライブ（例：[CD-ROM（D:)]）をダブルクリックする。

❸ 再生したいファイルをダブルクリックする。

詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名」（45ページ）をご覧ください。

再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「DCIM」フォルダ→「100MSDCF」フォルダ→画像ファイル
動画*	「MSSONY」フォルダ→「MOML0001」フォルダ→画像ファイル
音声*	「MSSONY」フォルダ→「MOMLV100」フォルダ→音声ファイル
クリップモーション画像	「DCIM」フォルダ→「100MSDCF」フォルダ→画像ファイル
Eメール画像、TIFF（非圧縮）画像	「MSSONY」フォルダ→「IMCIF100」フォルダ→画像ファイル

* パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。ディスクから直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。

B USB接続で見る

付属のCD-ROMに入っているDirectCDをインストールすれば、ディスクをファイナライズしなくても見られます。
付属のUSBケーブルとCD-ROMを使って、パソコンとの間でデータのやりとりができます。

USBドライバーをインストールする

本機とパソコンをまだ接続しないでください。

本機をパソコンに接続する前に、お手持ちのパソコンにUSBドライバーをインストールします。USBドライバーは、SPVD-006**と書かれた付属の**CD-ROMに収録されています。
ドライブが正しく認識されない場合は、「故障かな？と思ったら」（91ページ）をご覧ください。

例：Windows Me**をお使いの場合**

❶ パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

このとき本機とパソコンはUSB接続しないでください。

パソコンで画像を見る（つづき）

❷ **SPVD-006と書かれた付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブに入れる。**

ここでDirectCDのSET UP画面が表示される場合は、その画面の［終了］をクリックして画面を閉じてください。

❸ **［マイコンピュータ］を開き、CD-ROMドライブ（例：［CD-ROM（D:)］）を右クリックして「開く（O)」を選ぶ。**

CD-ROMのファイル一覧が表示されます。
このとき他のアプリケーションが動作している場合は、終了させてください。

❹ **ファイル一覧の［SONY USB］フォルダをダブルクリックし、［SET UP］をダブルクリックする。**

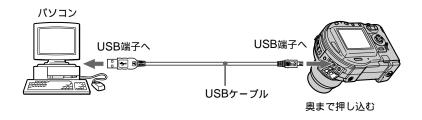
デバイスドライバーのインストーラーが動作し、必要なファイルをパソコンに自動的にコピーします。

❺ **パソコンを再起動する。**

インストール終了後、再起動をするかどうかを聞かれた場合、「はい」をクリックして再起動します。その他の場合は手動で再起動してください。

❻ **パソコンを接続する前に本機の準備をします。**

- 本機にACパワーアダプターを接続する。
- 本機の電源を入れる。

❼ **付属のUSBケーブルで、本機のUSB端子とパソコンのUSB端子を接続します。**

❽ **Windowsが本機を自動的に認識します。**

［マイコンピュータ］を開くと、新しく認識されたドライブ（例：［(E：)］）が表示されています。これでドライバーのインストール作業は終了です。

❾ **本機にディスクを入れる。**

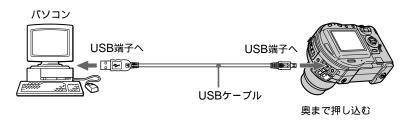
以下の「画像を見る」へ進みます。画像を見ないでディスクを取り出す場合は、必ず「USBケーブルを抜く前に」（43ページ）をご覧ください。

画像を見る

ファイナライズしていないディスクの画像を見る場合のみ、付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールしておく必要があります。DirectCDのインストールについては、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

例：Windows Meをお使いの場合

❶ **パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。**

❷ **付属の専用USBケーブルで、本機のUSB端子とパソコンのUSB端子を接続する。**

❸ **本機にディスクを入れ、ACパワーアダプターを接続して本機の電源を入れる。**

本機の液晶画面に「USBモード」と表示されます。

パソコンで画像を見る（つづき）

❹ **Windows上で［マイコンピュータ］を開き、新しく認識されたドライブ（例：［CD Mavica (E：)］）をダブルクリックする。**

ディスク内のフォルダが表示され、本機のディスクカバーがロックされます。ディスクを取り出す場合は、別冊のDirectCDソフトウェア取扱説明書の「ディスクを取り出す」の操作を行ってください。
ドライブが正しく認識されない場合は、「故障かな？と思ったら」（91ページ）をご覧ください。

❺ **見たい画像／音声ファイルをフォルダの中から選んで、ダブルクリックする。**

詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名」（45ページ）をご覧ください。

再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「DCIM」フォルダ→「100MSDCF」フォルダ→画像ファイル
動画*	「MSSONY」フォルダ→「MOML0001」フォルダ→画像ファイル
音声*	「MSSONY」フォルダ→「MOMLV100」フォルダ→音声ファイル
クリップモーション画像	「DCIM」フォルダ→「100MSDCF」フォルダ→画像ファイル
Eメール画像、TIFF（非圧縮）画像	「MSSONY」フォルダ→「IMCIF100」フォルダ→画像ファイル

* パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。ディスクから直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。

ディスクを取り出す場合は、必ず「USBケーブルを抜く前に」（43ページ）をご覧ください。

本機からパソコンにデータを取り込むときは

希望のファイルを選択し、任意のドライブまたはフォルダに取り込みます。

パソコンから本機にデータを取り込むときは

DirectCDをインストールすれば、希望のデータをディスクに取り込むことができます。
本機で画像を再生するためには、データのファイル名をDSC0□□□□.JPGという形式にする必要があります。詳しくは、「画像ファイルの保存先とファイル名」（45ページ）をご覧ください。

USBケーブルを抜く前に
USBケーブルを抜く前に、付属のDirectCDの取扱説明書に記載されている「ディスクを取り出す」操作を必ず行ってください。
この操作を行わないとデータが壊れることがあります。
下記の手順を参照してください。

1 ディスクを取り出す。
詳しくは付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

2 Windows Me、Windows 2000 Professionalをお使いの場合
① タスクバーの［ ］から、該当するドライブを選んで停止させる。
② 安全な取りはずしが可能だと知らせるメッセージが出てから、USBケーブルを抜く。

上記以外のOSをお使いの場合
USBケーブルを抜く。

C CD-Rドライブ／CD-RWドライブで見る

ディスクをファイナライズしなくても、CD-Rドライブ/CD-RWドライブで見ることができます。付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールしておく必要があります。DirectCDのインストールについては、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

Macintoshで画像を見る

CD-ROMドライブで見る
ディスクをファイナライズしておきます（32ページ）。SPVD-006と書かれた付属のCD-ROMに入っているドライバーAdaptec UDF Volume Accessをパソコンにインストールします。

❶ パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動する。

❷ SPVD-006と書かれた付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

❸ CD-ROMのアイコンをダブルクリックし、ウィンドウを開く。

❹ OSの入っているハードディスクのアイコンをダブルクリックし、ウィンドウを開く。

❺ 手順❸で開いたウィンドウから、システム拡張ファイル「Adaptec UDF Volume Access」を、手順❹で開いたウィンドウの「システムフォルダ」のアイコンの上に移動する（ドラッグ・アンド・ドロップする）。

❻ 「機能拡張フォルダに入れますか？」と表示されたら「はい」を選択する。

❼ パソコンを再起動する。

画像を見る

❶ パソコンを起動し、ディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れる。

❷ ディスクのアイコンをダブルクリックする。

❸ 再生したいファイルをダブルクリックする。

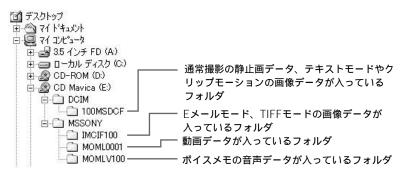
詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名」（45ページ）をご覧ください。

再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「DCIM」フォルダ→「100MSDCF」フォルダ→画像ファイル
動画*	「MSSONY」フォルダ→「MOML0001」フォルダ→画像ファイル
音声*	「MSSONY」フォルダ→「MOMLV100」フォルダ→音声ファイル
クリップモーション画像	「DCIM」フォルダ→「100MSDCF」フォルダ→画像ファイル
Eメール画像、TIFF（非圧縮）画像	「MSSONY」フォルダ→「IMCIF100」フォルダ→画像ファイル

* パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。ディスクから直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、撮影モードごとにフォルダにまとめられています。ファイル名の意味は以下の通りです。
□□□□には0001から9999の数字が入ります。

Windows Meで見たときの例（本機が認識されたドライブはE）

このフォルダの中にある	このファイルは	こういう意味
100MSDCF	DSC0□□□□.JPG	•通常撮影した静止画ファイル •以下で撮影した静止画ファイル —Eメールモード（59ページ） —TIFFモード（62ページ） —ボイスメモモード（60ページ）
	CLP0□□□□.GIF	ノーマルモードで撮影したクリップモーションファイル（64ページ）
	CLP0□□□□.THM	ノーマルモードで撮影したクリップモーションファイルのインデックス画像ファイル
	MBL0□□□□.GIF	モバイルモードで撮影したクリップモーションファイル（64ページ）
	MBL0□□□□.THM	モバイルモードで撮影したクリップモーションファイルのインデックス画像ファイル
	TXT0□□□□.GIF	テキストモードで撮影した静止画ファイル（61ページ）
	TXT0□□□□.THM	テキストモードで撮影した静止画ファイルのインデックス画像ファイル

画像ファイルの保存先とファイル名（つづき）

このフォルダの中にある	このファイルは	こういう意味
IMCIF100	DSC0□□□□.JPG	Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイル（59ページ）
	DSC0□□□□.TIF	TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイル（62ページ）
MOML0001	MOV0□□□□.MPG	通常撮影した動画ファイル
MOMLV100	DSC0□□□□.MPG	ボイスメモモードで撮影した音声ファイル（60ページ）

下記のファイルの数字部分は同じになります。
– Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイルとその画像ファイル
– TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイルとその画像ファイル
– ボイスメモモードで撮影した音声ファイルとその画像ファイル
– テキストモードで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル
– クリップモーションで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル

ちょっと一言

デジタルスチルカメラは撮影した画像をデジタルデータで保存します。このデジタルデータの形式をファイル形式といい、本機は以下の形式を採用しています。

JPEG**形式**

ほとんどのデジタルスチルカメラやパソコンのOS/ブラウザソフトで採用されている画像圧縮形式です。撮影した画像データを、見た目をあまり変えずに圧縮/保存できます。反面、圧縮/保存をくりかえすと画像が劣化します。本機では通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

GIF**形式**

圧縮/保存をくり返しても画像が劣化しない画像の圧縮形式です。色を256色に制限します。本機ではクリップモーションモード（64ページ）、テキストモード（61ページ）での撮影時にGIF形式で画像を保存します。

TIFF**形式**

撮影した画像データを圧縮せずに保存するので画像が劣化しません。ほとんどのパソコンのOSやソフトウェアに対応できます。本機では、TIFFモード（62ページ）での撮影時にTIFF形式で画像を保存します。

MPEG**形式**

動画の代表的な圧縮形式です。本機では動画撮影時とボイスメモ（60ページ）での撮影時に、音声をMPEG形式で保存します。

応用操作の前にお読みください

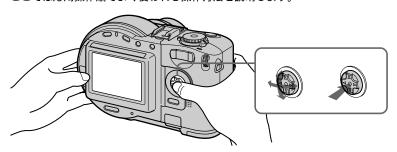
ここでは、「応用操作」でよく使われるダイヤルやボタンの使いかたをまとめて説明します。

モードダイヤルの使いかた

本機を使って撮影、再生・編集などの機能を切り換えるダイヤルです。「SET UP」にすると、使用頻度の少ない機能の設定を変えられます（84ページ）。操作を始める前に、あらかじめ以下のように切り換えておきます。

📷： 静止画や、ボイスメモを撮影する
S： シャッタースピード優先モードで撮影する
A： 絞り優先モードで撮影する
M： シャッタースピードと絞りを手動調整して撮影する
SCN： シーンセレクションを選んで撮影する
SET UP：SET UPの項目を表示する
🎞： 動画やクリップモーションを撮影する
▶： 画像を再生・編集する

コントロールボタンの使いかた

メニューやSET UP画面が表示されている場合、本機はコントロールボタンで画面上のボタンや画像、メニュー項目を選び操作します。
ここでは応用操作編でよく使われる操作方法を説明します。

画面上の操作ボタン（メニュー）を表示／非表示する

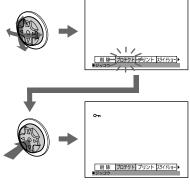
MENUボタンを押すたびに、画面上のメニューが表示／非表示されます。

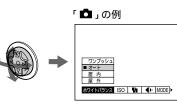
SET UP画面やメニューでの設定を変える

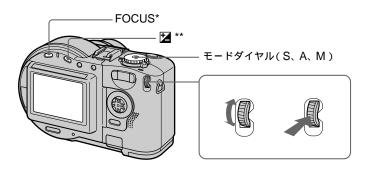
1 モードダイヤルを「SET UP」にしてSET UP画面を表示するか、MENUボタンを押してメニューを表示する。

2 • モードダイヤルの設定が「SET UP」または「▶」のとき

① コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ。
選ばれた項目は黄色に変わります。

② コントロールボタンの中央の●を押し、決定（実行）する。

• モードダイヤルの設定が「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のとき

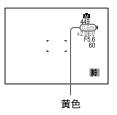
コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目の設定を選ぶ。
選ばれた設定は黄色に変わり、そのまま決定されます。

ジョグダイヤルの使いかた

撮影時によく使う機能は本機のモードダイヤルやボタンで選びます。ジョグダイヤルはこうした機能の設定値を変更するときに使用します。

* モードダイヤルが「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のときに有効
** モードダイヤルが「📷」または「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のときに有効

❶ FOCUSボタンや ボタンを押すか、モードダイヤルを「S」または「A」、「M」に合わせる。

❷ ジョグダイヤルを回し、設定したい項目や数値を選ぶ。

- 画面右端の◀が黄色い場合は、項目が選べます。この場合、手順❸へ飛びます。

- 画面右端の数値が黄色い場合は、その数値を変えられます。（FOCUSボタンを押した場合は、数値の位置にマークが出ます。）
  項目や数値は表示された状態で決定されます。数値を変えるだけなら、この手順❷で終わりです。

応用操作の前にお読みください

❸ ジョグダイヤルを押す。

数値が黄色で表示されます。数値を変えるには手順❷をくり返します。

ジョグダイヤルで再生時に画像送りする

モードダイヤルを「▶」にしてシングル画面表示（72ページ）を選んだとき、ジョグダイヤルを回して再生画像を先送りしたり前に戻したりできます。

設定項目の説明

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。画面には、使える項目のみが表示されます。■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」「S」「A」「M」「SCN」のとき

項目	設定	意味
WB （ホワイトバランス）	ワンプッシュ ■ オート 屋内 屋外	ホワイトバランスを設定する（68ページ）。
ISO	400 200 100 ■ オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所での撮影や高速で移動する被写体の撮影には大きい数字を、高画質を得るには小さい数字を選ぶ。（「SCN」を除く。）
（画像サイズ）	MVC-CD200 ■ 1600×1200 1600（3:2） 1024×768 640×480 MVC-CD300 ■ 2048×1536 2048（3:2） 1600×1200 1280×960 640×480	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（54ページ）。
（画質）	■ ファイン スタンダード	高画質で静止画を記録する。 標準の画質で静止画を記録する。

モードダイヤルが「📷」「S」「A」「M」「SCN」のとき

項目	設定	意味
MODE （撮影モード）	TIFF テキスト ボイスメモ Eメール ブラケット（MVC-CD300のみ） 3枚連写（MVC-CD300のみ） ■ 通常撮影	JPEGファイルと別にTIFF（非圧縮）ファイルを記録する（62ページ）。 GIFファイルで白黒撮影する（61ページ）。 JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（60ページ）。 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（59ページ）。 3通りの異なった露出で静止画を3枚撮影する（63ページ）。 3枚連写する（59ページ）。 通常の撮影をする。
⚡± （フラッシュレベル）	明 ■ 標準 暗	フラッシュの発光量を通常より多くする。 通常の設定。 フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX （P. エフェクト）	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する（70ページ）。
◨ （シャープネス）	＋2～－2	画像のシャープネスを調節する。設定を0にしていないときは、画面に◨が出る。

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［MPEGムービー］のとき）

項目	設定	意味
WB （ホワイトバランス）	ワンプッシュ ■ オート 屋内 屋外	ホワイトバランスを設定する（68ページ）。
▦ （画像サイズ）	320（HQ） 320×240 ■ 160×112	動画撮影時にMPEG画像のサイズを選ぶ（54ページ）。
PFX （P. エフェクト）	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する（70ページ）。

応用操作の前にお読みください（つづき）

モードダイヤルが「🎞」のとき
（SET UPの[動画選択]が[クリップモーション]のとき）

項目	設定	意味
WB （ホワイトバランス）	ワンプッシュ ■ オート 屋内 屋外	ホワイトバランスを設定する（68ページ）。
（画像サイズ）	■ ノーマル モバイル	クリップモーションのモードを選ぶ（64ページ）。
± （フラッシュレベル）	明 ■ 標準 暗	フラッシュの発光量を通常より多くする。 通常の設定。 フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX （P. エフェクト）	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する（70ページ）。
（シャープネス）	＋2〜ー2	画像のシャープネスを調節する。設定を0にしていないときは、画面にが出る。

モードダイヤルが「▶」のとき

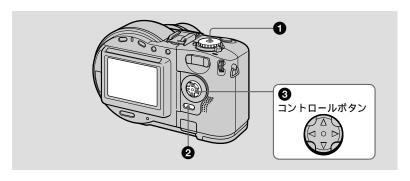
項目	設定	意味
削除	実行 キャンセル	表示中の画像を削除する（77ページ）。 削除を中止する。
プロテクト	ー	画像に誤消去防止指定をする（78ページ）。
プリント	ー	プリントしたい静止画像を選ぶ（81ページ）。
スライドショー*	間隔設定 繰り返し スタート キャンセル	スライドショーの間隔を設定する。 ■5秒／10秒／30秒／1分 20分までスライドショーを繰り返す。 ■入／切 スライドショーを実行する。 スライドショーの設定および実行を中止する。

* シングル画面のときのみ

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
リサイズ*	MVC-CD200 　1600×1200 　1024×768 　640×480 　キャンセル MVC-CD300 　2048×1536 　1600×1200 　1280×960 　640×480 　キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（80ページ）。
回転*	右回り 左回り 実行 キャンセル	静止画像を右回り、左回りに回転する（75ページ）。

* シングル画面のときのみ

画像サイズとは

❶ **モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする。**

❷ MENU**ボタンを押す。**

メニューが表示されます。

❸ **[▦]（画像サイズ）から希望の画像サイズをコントロールボタンの▲/▼で選ぶ。**

静止画の場合：

MVC-CD200：1600×1200、1600（3:2）*、1024×768、640×480
MVC-CD300：2048×1536 、2048（3:2）*、1600×1200、
1280×960、640×480

* プリント紙の横縦比3：2に合うように、画像を3：2で撮影します。プリントしたときに余白が出ません。撮影時には、液晶画面(横縦比4：3)の上下に黒帯が現れます。

動画（MPEG**ムービー）の場合：**

320（HQ）*、320×240、160×112
* High Quality(高画質)モード

動画（クリップモーション）の場合：

モバイル（80×72)、ノーマル（160×120）

1枚のディスクに記録できる枚数*または時間**は

MVC-CD200

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
1600×1200	約237枚	約132枚
1600(3:2)	約237枚	約132枚
1024×768	約500枚	約321枚
640×480	約1300枚	約663枚
320(HQ)	約355(15)秒	
320×240	約1420(60)秒	
160×112	約5400(240)秒	
モバイル	約1430枚	
ノーマル	約560枚	

MVC-CD300

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
2048×1536	約147枚	約81枚
2048(3:2)	約147枚	約81枚
1600×1200	約237枚	約132枚
1280×960	約349枚	約197枚
640×480	約1300枚	約663枚
320(HQ)	約355(15)秒	
320×240	約1420(60)秒	
160×112	約5400(240)秒	
モバイル	約1430枚	
ノーマル	約560枚	

*　撮影モードが[通常撮影]の場合

**（　）内は連続撮影時最大記録時間

ご注意

枚数は使用状況によって減ることがあります。

ちょっと一言

デジタルスチルカメラでは撮影画像のサイズを2048×1536ピクセル、というふうに「ピクセル」で表します。ピクセル数は大きいほど画像情報が多く、パソコンでの画像加工や大判プリントに向いています。小さければEメール添付などに便利です。通常、デジタルスチルカメラの画像はパソコンモニターのサイズに合わせて横縦比4：3で撮影されますが、本機ではプリンターの用紙サイズ（3：2）も選択できます。これは、街のDPEショップで写真を現像したときと同じサイズです。

2048×1536

2048(3:2)

応用操作の前にお読みください

露出を固定して撮る ー AE LOCK

モードダイヤル：📷/S/A/SCN

AE LOCKボタンを押すと、その構図での露出を固定します。スポット測光で適正露出にしたい部分を測光し、その後、構図を変えて撮影するときなどに有効です。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「SCN」にする。

2 欲しい露出の得られる方へ本機を向け、AE LOCKボタンを押す。

露出が固定され、AE-Lマークが出ます。

3 被写体へ向き直り、シャッターを軽く押す。

フォーカスを調節します。

4 シャッターを深く押し込む。

AE LOCKを解除するには

以下のいずれかの操作を行います。

- 手順**2**の後でもう1度AE LOCKボタンを押す。
- 手順**3**の後でシャッターから指を離す。
- 手順**4**でそのまま画像を撮る。

手動調整で撮る

モードダイヤル：S/A/M

シャッタースピード優先モード

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じた適正露出になるように自動的に絞りが設定されます。シャッタースピードを高速にすると被写体の動きを止めた撮影ができ、低速にすると流動感を強調した表現を手軽に行うことができます。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 ジョグダイヤルでシャッタースピード値を選び、ジョグダイヤルを押す。

1/3段ごとに8秒から1/800秒（MVC-CD200）、または8秒から1/1000秒（MVC-CD300）までの間で設定ができます。

絞り優先モード

絞り値を設定すると、被写体の明るさに応じた適正露出になるようにシャッタースピードが自動的に設定されます。絞り値を小さくすると絞りが開き、背景をぼかした撮影ができます。絞り値を大きくすると、絞り込んで画面全体の鮮明な撮影ができます。

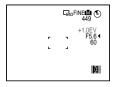
1 モードダイヤルを「A」にする。

2 ジョグダイヤルで絞り値を選び、ジョグダイヤルを押す。

1/3段ごとにF2.8からF11まで（MVC-CD200）またはF2からF8まで（MVC-CD300）の中から選ぶことができます。

マニュアル露出モード

シャッタースピードと絞り値を設定して撮影目的に合わせた撮影条件を決定できます。画面上にEV補正値（67ページ）が表示されます。0 EVは本機が最適と判断した設定値です。お好みに応じてEV補正値を調整してください。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 ジョグダイヤルで絞り値を選び、ジョグダイヤルを押す。

3 ジョグダイヤルで希望の絞り値を選び、ジョグダイヤルを押す。

4 ジョグダイヤルでシャッタースピード値表示を選び、ジョグダイヤルを押す。

5 ジョグダイヤルで希望のシャッタースピード値を選ぶ。

設定可能な数値については「絞り優先モード」（左記）または「シャッタースピード優先モード」（56ページ）をご覧ください。

ご注意

シャッタースピード優先モード、絞り優先モード、マニュアル露出モードのとき、設定が適正でないと、シャッター半押し時に液晶画面の設定値表示が点滅します。そのまま撮影することもできますが、設定し直すことをおすすめします。

場面に合わせて撮る

ー シーンセレクション

モードダイヤル：SCN

夜景、風景、ポートレート、それぞれの撮影に適した調整を自動的に行います。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UPが表示されます。

2 ▲/▼で［📷］（カメラ）、▶/▲/▼で［シーンセレクション］の順に選び、▶を押す。

3 希望の設定を選び、●を押す。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに夜景をきれいに撮影するときに使います。シャッタースピードが遅くなるので、手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

風景モード

自動的に絞りを絞り込む側に設定し、遠景にフォーカスを合わせます。遠くの風景などを撮影するときに使います。

ポートレートモード

背景をぼかし、手前の人物を浮きあがらせた画像を撮影するときに使います。

4 モードダイヤルを「SCN」にする。

シーンセレクションの設定が呼び出されます。

シーンセレクションを解除するには

モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SET UP」、「🎞」、「▶」にします。

ご注意

- 風景モードでは、遠景のみにフォーカスが合うようにフォーカスをコントロールします。
- 次のモードでフラッシュを使うときは、強制発光⚡にしてください。
  ー夜景モード
  ー風景モード
- シーンセレクションご使用時、AFイルミネーター（25ページ）は次の条件のときには発光しません。
  ー 夜景モード：フラッシュを強制発光⚡にしていない
  ー 風景モード：AFイルミネーターは使えません。

ちょっと一言

通常の撮影時、本機は周囲の環境にあわせて、フォーカスや絞り、露出、ホワイトバランスなどを自動調整しています。しかし、この自動調整では撮影意図どおりの画像を撮影できないことがあります。シーンセレクションは、あらかじめ想定した撮影状況に最適になるように本機を設定するモードです。

3枚連写する(MVC-CD300のみ)

モードダイヤル：📷/S/A/M/SCN

連続撮影するときに使います。
シャッターを押すと、3枚連続して撮影されます。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［3枚連写］の順に選ぶ。

4 撮影する。

通常撮影モードに戻るには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

ご注意

- フラッシュは使えません。
- 連写中は液晶画面に画像が出ません。シャッターを押す前に構図を決めておいてください。
- 撮影の間隔は約0.6秒です。
- 3枚連写をするときは、1秒を超えるシャッタースピードは選べません。

Eメール添付用の画像を撮る – Eメール

モードダイヤル：📷/S/A/M/SCN

Eメール添付に適した、小さいサイズの画像を撮影します。54ページで選んだサイズの静止画と同時に記録されます。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］の順に選ぶ。

4 撮影する。

Eメールモード時、1枚のディスクに記録できる枚数は

MVC-CD200

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
1600×1200	約216枚	約126枚
1600(3:2)	約216枚	約126枚
1024×768	約416枚	約285枚
640×480	約855枚	約524枚

MVC-CD300

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
2048×1536	約138枚	約79枚
2048(3:2)	約138枚	約79枚
1600×1200	約216枚	約126枚
1280×960	約306枚	約182枚
640×480	約855枚	約524枚

通常撮影モードに戻るには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

画像に音声を記録する

ー ボイスメモ

モードダイヤル：📷/S/A/M/SCN

静止画の撮影と同時に、音声を記録します。撮影した時の状況を、より生き生きと記録することができます。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ボイスメモ］を選ぶ。

4 撮影する。

シャッターをポンと1回押すと

5秒間音声が記録されます。

シャッターを押し続けると

押し続けている間、最長40秒間音声が記録されます。

ボイスメモ撮影時、1枚のディスクに記録できる枚数は*

MVC-CD200

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
1600×1200	約203枚	約121枚
1600(3:2)	約203枚	約121枚
1024×768	約369枚	約262枚
640×480	約677枚	約451枚

MVC-CD300

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
2048×1536	約133枚	約77枚
2048(3:2)	約133枚	約77枚
1600×1200	約203枚	約121枚
1280×960	約280枚	約172枚
640×480	約677枚	約451枚

* 音声記録5秒の場合

通常撮影モードに戻るには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

書類の文字などを撮る

ー テキストモード

モードダイヤル：

文字などをモノクロではっきりと撮影するのに適しています。液晶画面もモノクロになり、GIF形式で記録します。

1 モードダイヤルを「」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［テキスト］を選ぶ。

4 撮影する。

テキストモード時、1枚のディスクに記録できる枚数は*

MVC-CD200

画像サイズ	
1600×1200	最少330枚
1600(3:2)	最少361枚
1024×768	最少618枚
640×480	最少974枚

MVC-CD300

画像サイズ	
2048×1536	最少221枚
2048(3:2)	最少244枚
1600×1200	最少330枚
1280×960	最少462枚
640×480	最少974枚

* 文字の量など内容によって撮影最大枚数は変わります。

通常撮影モードに戻るには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

ご注意

- 被写体に均等に光が当たらないと、うまく撮影できないことがあります。
- データの書き込み／読み出しに通常撮影よりも時間がかかります。
- モードダイヤルが「M」または「SCN」のときは、白とびや黒つぶれが生じることがあります。
- 画質が［スタンダード］でも［ファイン］でも記録できる枚数は同じです。

画像を圧縮せずに撮る

ー TIFFモード

モードダイヤル：■/S/A/M/SCN

画像データを圧縮せずに撮影するため、画質の劣化がほとんどありません。写真画質でのプリント時などに適しています。JPEG（圧縮）モードの画像も同時に記録します。

1 モードダイヤルを「■」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［TIFF］を選ぶ。

4 撮影する。

TIFFモード時、1枚のディスクに記録できる枚数は

MVC-CD200

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
1600×1200	20枚	19枚
1600(3:2)	22枚	21枚

MVC-CD300

画像サイズ	画質	
	スタンダード	ファイン
2048×1536	12枚	11枚
2048(3:2)	14枚	13枚

通常撮影モードに戻るには

手順**3**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

ご注意

- JPEG画像は、54ページで選ばれている画像サイズで記録されます。TIFF画像は[1600(3：2)](MVC-CD200)または[2048(3：2)](MVC-CD300)を選んでいるとき以外は[1600×1200](MVC-CD200)または[2048×1536](MVC-CD300)で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。

最適な露出を探す(MVC-CD300のみ)

ー ブラケット

モードダイヤル： 📷/S/A/M/SCN

自動的に露出を変えて3枚の画像を撮影できます。露出補正量の設定は、適正露出を中心に1/3 EVごとに＋1.0 EVから－1.0 EVの範囲で選択できます。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UPが表示されます。

2 ▲/▼で［📷］(カメラ)、▶/▲/▼で［ブラケット設定］の順に選び、▶を押す。

3 希望の露出振り幅を▲/▼で選び、●を押す。

±1.0EV：露出値を上下に1.0EVずらして撮影します。
±0.7EV：露出値を上下に0.7EVずらして撮影します。
±0.3EV：露出値を上下に0.3EVずらして撮影します。

4 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。

5 MENU**ボタンを押す。**

メニューが表示されます。

6 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ブラケット］の順に選ぶ。

7 撮影する。

通常撮影モードに戻るには

手順**6**で▲/▼で［通常撮影］を選びます。

ご注意

- フラッシュは使えません。
- 撮影中は液晶画面に画像が出ません。シャッターを押す前に構図を決めておいてください。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは、EV補正値を中心に露出を変えて撮影します。
- 撮影の間隔は約0.6秒です。

コマ送りで動画を撮る

ー クリップモーション

モードダイヤル：

連続撮影した静止画（GIFアニメ）を撮影します。ホームページに載せたり、Eメールに添付したりするときに便利です。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UPが表示されます。

2 ▲/▼で［］（カメラ）、▶/▲/▼で［動画選択］、▲/▼で［クリップモーション］の順に選び、●を押す。

3 モードダイヤルを「」にする。

4 MENU**ボタンを押す。**

メニューが表示されます。

5 ◀/▶で［］（画像サイズ）、▲/▼で希望のモードを選ぶ。

ノーマル（160×120）

最大10コマのクリップモーションを撮影できます。

ホームページなどでのご利用に適しています。

モバイル（80×72）
最大2コマのクリップモーションを撮影できます。
携帯端末などでのご利用に適しています。

6 1コマ目の撮影をする。

手順**8**を行わないうちは画像は本機に一時的に記録されます。ディスクには記録されません。

7 次のコマを撮影する。

撮影可能最大枚数まで繰り返し撮影できます。

8 ●を押す。

すべての画像がディスクに記録されます。

撮影した画像を途中で削除するには

① 手順**6**または**7**で、◀（⊡）を押す。
撮影した画像が順番に再生されます。
② MENUボタンを押し、◀/▶で［最後のみ削除］または［すべて削除］を選び、●を押す。
③ ▲/▼で［実行］を選び、●を押す。
手順②で［最後のみ削除］を選択した場合は、手順①〜③を繰り返すと、新しい画像から順番に削除されていきます。

1枚のディスクに記録できるクリップモーションの枚数は

画像サイズ	
ノーマル（160×120）	約560枚*
モバイル（80×72）	約1430枚**

* 10コマ撮影した場合
** 2コマ撮影した場合

ご注意

- クリップモーションの撮影途中で画像サイズを変更することはできません。
- データの書き込み／読み出しに、通常撮影よりも時間がかかります。
- クリップモーション画像は、GIF形式の制限により、256色以下の色数に減色されています。従って画像によっては画質が落ちる場合があります。
- モバイルモードでは、ファイルサイズを小さく抑えているため画質が落ちます。
- 本機以外で作成したGIFファイルは正しく表示されない場合があります。
- モードダイヤルを切り換えたり、POWERスイッチで電源を切ったりすると、それまでに撮影したすべての画像がディスクに記録されます。

被写体までの距離を設定する

ー フォーカスプリセット

モードダイヤル：📷/S/A/M/SCN/🎞

通常は、本機が自動的にフォーカスの調整を行っていますが、被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、フォーカス自動調整が効きにくいときに使うと便利です。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする。

2 FOCUSボタンを押す。

フォーカスが固定され、手動フォーカス合わせ表示Fが表示されます。

3 ジョグダイヤルでプリセットされているフォーカス設定を選ぶ。

フォーカスはF位置のものを含めて15の設定から選べます。
（単位：m）
0.1、0.2、0.3、0.5、0.8、1.0、1.5、2、3、5、7、10、15、∞（無限遠）

自動調整に戻すには

FOCUSボタンをもう1度押して、フォーカス距離表示を消します。

ご注意

- フォーカス距離情報は正確な距離ではありません。目安として使用してください。
- コンバージョンレンズ装着時はフォーカスプリセットは正しく働きません。
- ズームTボタンを押してズームをT側にしていると、約0.5 m以内のフォーカスが正しく合わないことがあります。その場合、フォーカス距離情報が点滅します。点滅しなくなるまで、ズームWボタンを繰り返し押してください。

アップで撮る

ー マクロ撮影

モードダイヤル：📷/S/A/M/SCN/🎞

花や昆虫など、被写体に接近して大きく撮るようなときに使います。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする。

2 メニューが消えた状態で、コントロールボタンの▶（🌷）を押す。

画面に🌷が表示されます。
ズームをW側いっぱいに合わせると、約3 cm（MVC-CD200）または約4 cm（MVC-CD300）までマクロ撮影ができます。

通常の撮影モードに戻すには

もう1度コントロールボタンの▶（🌷）を押します。🌷が消えます。

ご注意

シーンセレクションが風景モードのときは、マクロ撮影ができません。

露出を補正する

ー EV補正

モードダイヤル：📷/S/A/SCN/🎞

自動的に決定された露出を撮影者の意図する露出に変えるときに使います。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「SCN」、「🎞」にする。

2 ☒ ボタンを押す。

3 ジョグダイヤルで補正値を選ぶ。

被写体の背景の明るさを確認しながら調節してください。
1/3 EVごとに＋2.0 EVから－2.0 EVまで変えられます。

ご注意

被写体が極端に明るいときや暗いとき、およびフラッシュ使用時には、設定した補正が効かない場合があります。

ちょっと一言

通常の撮影時、本機は自動で露出を補正しています。撮影画像を確認し、下のイラストのようになっていたら、手動調節することをおすすめします。逆光の人物や雪景色で撮影するときは＋の方向に、画面一杯に黒い被写体を撮影するときなどは－方向に補正すると効果的です。

露出不足。
＋方向へ補正。

露出過剰。
－方向へ補正。

色合いを調整する

ー ホワイトバランス

モードダイヤル：📷/S/A/M/SCN/🎞

通常（オート）は、撮影状況に応じて本機が自動的にホワイトバランスを設定して、全体の色のバランスを調整しています。撮影条件を固定したいときや特定の照明状態で撮影するときは、マニュアルで設定することができます。

1 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［WB］（ホワイトバランス）、▲/▼で希望の設定を選ぶ。

ワンプッシュ（）

光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にするとき

オート（表示なし）

ホワイトバランスを自動調整する

屋内（）

- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下
- ナトリウムランプや水銀灯の下

屋外（☀）

- 夜景やネオン、花火などを撮るとき
- 日の出、日没などを撮るとき

◪（ワンプッシュホワイトバランス）モードで撮る

① ［ワンプッシュ］を選ぶ。
◪が表示されます。

② 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。

③ ▲を押す。
◪表示が速い点滅に変わる。
ホワイトバランスが調整されてカメラに記憶されると、点灯に変わる。

自動調節に戻すには

手順**3**で▲/▼で［オート］を選びます。

ご注意

- 蛍光灯の下で撮影するときは［オート］を選びます。
- ◪表示について
  遅い点滅：ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合
  速い点滅：ホワイトバランス調整中
  点灯：ホワイトバランス設定終了
- ▲ボタンを押しても◪表示が点滅から点灯に変わらない場合は［オート］で撮影します。

ちょっと一言

被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。夏の太陽のような光の下ではすべてのものが青っぽく見え、電球のような光源の下では白いものが赤っぽく見えます。人間の目にはすぐれた調節機能があり、光が変わってもすぐに正しい色を認識できます。しかし、デジタルスチルカメラは光の影響を大きく受けます。通常本機は調節を自動で行なっていますが、撮影画像を再生してみて画面全体が不自然な色合いのときはホワイトバランスの設定をすることをおすすめします。

画像に特殊効果を加えて撮る
ー ピクチャーエフェクト

モードダイヤル：[camera]/S/A/M/SCN/[movie]

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

1 **モードダイヤルを「[camera]」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「[movie]」にする。**

2 MENU**ボタンを押す。**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［**PFX**］（ピクチャーエフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ。**

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

モノトーン

白黒に

セピア

古い写真のような色合いに

ネガアート

写真のネガフィルムのように

切

ピクチャーエフェクトを使用しない。

ピクチャーエフェクトを解除するには

手順**3**で**▲/▼**で［切］を選びます。

静止画に日付や時刻を入れる ー 日付／時刻

モードダイヤル：[camera]/S/A/M/SCN

1 **モードダイヤルを「**SET UP**」にする。**

SET UPが表示されます。

2 **▲/▼で［[camera]］（カメラ）、▶/▲/▼で［日付/時刻］の順に選び、▶を押す。**

3 **▲/▼で日付・時刻の設定を選び、●を押す。**

日時分

画像に日時分を挿入する。

年月日

画像に年月日を挿入する。

切

画像に日付・時刻を挿入しない。

4 **モードダイヤルを「[camera]」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にする。**

5 撮影する。

撮影時は日付や時刻は表示されません。再生時に表示されます。

ご注意

- 手順**3**で[年月日]を選んだ場合、「日付・時刻を合わせる」(13ページ)で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。

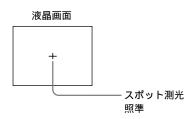
スポット測光を使う

モードダイヤル：/S/A/M/SCN/

逆光のときや被写体と背景とのコントラストが強い場合でも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。

[•] ボタンで全体測光、スポット測光の切り換えをする。

撮りたいポイントをスポット測光照準に合わせて撮ります。

応用操作 使いこなすー撮影

9画面表示する

ー インデックス画面表示

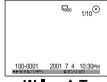
モードダイヤル：▶

本機のズームボタンを使って、何枚かの画像を同時に見ることができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 ズームW/Tボタンを繰り返し押す。

画面表示が次のように切り換わります。

• シングル画面（1枚表示）

• インデックス画面（9枚表示）

• 3枚画面表示

インデックス画面で黄色の枠に囲まれていた画像が撮影時の条件とともに3枚画面表示の中央に表示されます。
コントロールボタンの▲/▼を押すと残りの撮影条件が表示されます。

画像の種類と設定により、次のマークが画像に表示されます。
：動画ファイル
：ボイスメモファイル
： Eメールファイル
： プリントマーク
： プロテクトマーク
TEXT：テキストファイル
TIFF：TIFFファイル
CLIP：クリップモーションファイル
（表示なし）：通常撮影の静止画

次(前)のインデックス画面を表示するには

▲/▼/◀/▶を押します。

シングル画面(1枚表示)に戻すには

- ズームTボタンを繰り返し押します。
- ●を押します。

ご注意

クリップモーションやテキストモードで撮影した画像をインデックス画面で見ると、実際の画像とは違って見える場合があります。

ちょっと一言

3枚画面表示のときにMENUボタンを押すと［プリント］と［プロテクト］、［削除］のメニューが表示されます。詳しくは、77、78、81ページをご覧ください。もう1度MENUボタンを押すと、撮影条件表示に戻ります。

静止画の一部を拡大する

ー 再生ズーム／トリミング

モードダイヤル：▶

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 拡大したい画像を表示する。

3 ズームTボタンを繰り返し押して、画像を拡大する。

4 コントロールボタンを繰り返し押して、拡大部分を選ぶ。

▲：画像が下に移動します。
▼：画像が上に移動します。
◀：画像が右に移動します。
▶：画像が左に移動します。

拡大表示をやめるには

●を押します。

拡大した画像を記録する（トリミング）

① 再生ズーム後にMENUボタンを押す。
② ▶で［トリミング］を選び、●を押す。
③ ▲/▼で画像サイズを選び、●を押す。
画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

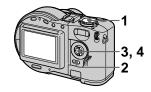
ご注意

- ズーム倍率は画像サイズに関係なく、元の画像の5倍までです。
- トリミングした画像は画質が劣化するおそれがあります。
- トリミングしても元の画像は残ります。
- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録されます。
- トリミングするとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、トリミングできないことがあります。
- 動画は再生ズームできません。
- テキストモードで撮影した画像は、再生ズームできますが、トリミングできません。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- 非圧縮画像(TIFF画像)はトリミングできません。

連続して再生する

ー スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した静止画をつぎつぎに再生します。画像のチェックやプレゼンテーションに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］を選び、●を押す。

下記の設定を▲/▼/◀/▶で選ぶ。

間隔設定

5秒、10秒、30秒、1分

繰り返し

入：繰り返し再生される（約20分）*。

切：すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

* すべての画像をひととおり再生し終わるまでは、20分を超えても終了しません。

4 ▲/▼で［スタート］を選び、●を押す。

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには
手順**3**で▲/▼/◀/▶で［キャンセル］を選び、●を押します。

スライドショー再生中に中止するには
●を押して、▶で［終了］を選び、●を押します。

スライドショー再生中に画像を送る／戻すには
画面左下の◀/▶を選びます。

ご注意
［間隔設定］の設定時間は、目安です。画像サイズなどにより変わることがあります。

静止画を回転する

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を回転して表示することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する。

2 MENU**ボタンを押す。**
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［回転］を選び、●を押す。

4 ▲/▼で［↘、↙］を選び、◀/▶で画像を回転させる。▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

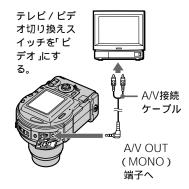
回転を中止するには
手順**4**で▲/▼で［キャンセル］を選び、●を押します。

ご注意
- テキストモードで撮影した画像、プロテクトされている画像、非圧縮画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、アプリケーションソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

- 回転を行うと、ディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、回転できないことがあります。

テレビで見る

モードダイヤル：▶

本機をテレビにつないで、撮影した画像を再生することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 A/V接続ケーブルで本機のA/V OUT（MONO）端子とテレビのオーディオ／ビデオ入力端子を接続する。

テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはA/V接続ケーブルの音声用端子（黒）をL（左）に接続してください。

3 テレビをつけ、本機で画像を再生する。

テレビに再生画像が映ります。

ご注意

- ビデオ端子がないアンテナ入力端子だけのテレビには接続できません。
- 静止画を見る場合、周囲に黒い枠が映ることがあります。
- テレビに画像が映らない場合、ビデオ出力信号（86ページ）の設定が正しいかご確認ください。

画像を消す – 削除

モードダイヤル：▶

不要な画像を削除します。

シングル画面または3枚画面表示のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にする。**

2 • **シングル画面で削除するとき**
◀/▶で削除したい画像を表示する。

• **3枚画面で削除するとき**
ズームWボタンを2回押して3枚画面にし、◀/▶で削除したい画像を表示する。

3 **MENUボタンを押す。**
メニューが表示されます。

4 **◀/▶（シングル画面表示）または▲/▼（3枚画面表示）で［削除］を選び、●を押す。**

5 **▲/▼で［実行］を選び、●を押す。**
画像（3枚画面表示では中央の画像）が削除されます。

インデックス画面表示のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンでインデックス画面表示にする。**

2 **MENUボタンを押す。**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［削除］を選び、●を押す。**

4 **◀/▶で［全画像］または［選択］を選び、●を押す。**

5 **［全画像］を選んだときは**
◀/▶で［実行］を選び、●を押す。プロテクトされていない画像がすべて削除されます。

［選択］を選んだときは
選んだ画像の枠が緑色に変わります。
① 削除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、●を押す。
選択を取り消すにはもう1度●を押します。削除したいすべての画像について繰り返します。
選んだ画像には🗑マークがつきます。

応用操作
編集

② MENUボタンを押す。
③ ◀/▶で［実行］を選び、●を押す。

削除を中止するには

手順**4**で◀/▶で［キャンセル］を、または手順**5**で◀/▶で［終了］を選び、●を押します。

ご注意

- CD-Rでは画像を消してもディスク残量は増えません。
- CD-RWでは⟲が液晶画面に出ている場合に限り、その時点で最新の画像を消すとディスク残量は元に戻ります。画像を加工したり、ディスクカバーを開閉したりすると⟲は消えます。
- ディスク残量が少ない場合、削除できないことがあります。
- 削除したい画像のファイル名と下4桁が同じファイルがディスク内に存在すると、同時に削除されます。

画像を保護する

ー プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。CD-RWの画像は、プロテクトされていてもフォーマット（83ページ）すると消去されます。

シングル画面または3枚画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする。

2 • **シングル画面でプロテクトをかけるとき**

◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する。

• **3枚画面でプロテクトをかけるとき**

ズームWボタンを2回押して3枚画面にし、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する。

3 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

4 ◀/▶（シングル画面表示）または▲/▼（3枚画面表示）で［プロテクト］を選び、●を押す。

表示されている画像（3枚画面表示では中央の画像）にプロテクトがかかり、⊶が表示されます。

プロテクト指定を解除するには

手順**4**でもう1度●を押します。⊶が消えます。

インデックス画面表示のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンでインデックス画面表示にする。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［プロテクト］を選び、●を押す。

4 ◀/▶で［全画像］または［選択］を選び、●を押す。

5 ［全画像］を選んだときは

◀/▶で［入］を選び、●を押す。ディスクに記録されている、すべての画像がプロテクトされます。

［選択］を選んだときは

選んだ画像の枠が緑色に変わります。

① プロテクトしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、●を押す。
選択を取り消すにはもう1度●を押します。プロテクトしたいすべての画像について繰り返します。
選んだ画像には⊶マークがつきます。

② MENUボタンを押す。
③ ◀/▶で［実行］を選び、●を押す。

プロテクト指定を解除するには

手順**4**で［全画像］を選んだときは◀/▶で［切］を選び、●を押します。［選択］を選んだときは、プロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。そのあとMENUボタンを押し、◀/▶で［実行］を選び、●を押します。

プロテクトを中止するには

手順**4**で◀/▶で［キャンセル］を、または手順**5**で◀/▶で［終了］を選び、●を押します。

ご注意

- プロテクトを行うとディスク残量は減ります。解除してもさらに減ります。
- ディスク残量が少ない場合、プロテクトできないことがあります。

画像のサイズを変える

ー リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変更することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にして、サイズを変えたい画像を表示する。

2 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［リサイズ］を選び、●を押す。

4 ▲/▼で変更したいサイズを選び、●を押す。

MVC-CD200：1600×1200、1024×768、640×480
MVC-CD300：2048×1536 、1600×1200、1280×960、640×480
変更した画像が記録されます。

リサイズを中止するには

手順**4**で▲/▼で［キャンセル］を選び、●を押します。

ご注意

- 小さいサイズを大きいサイズにリサイズすると、画質が劣化します。
- リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。
- 動画やテキストモードやクリップモーションで撮影した画像と非圧縮画像はリサイズできません。
- リサイズした画像は一番新しいファイルとして記録されます。
- リサイズを行うとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、リサイズできないことがあります。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、リサイズ後の画像の上下に黒い帯が入ります。

プリントしたい画像を選ぶ

ー プリントマーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像を指定します。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店で画像をプリントするときなどに便利です。

シングル画面または3枚画面表示のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にする。**

2 • **シングル画面でプリントマークをつけるとき**

◀/▶でプリントしたい画像を表示する。

• **3枚画面でプリントマークをつけるとき**

ズームWボタンを2回押して3枚画面にし、◀/▶でプリントしたい画像を表示する。

3 **MENUボタンを押す。**

メニューが表示されます。

4 **◀/▶（シングル画面表示）または▲/▼（3枚画面表示）で［プリント］を選び、●を押す。**

表示されている画像（3枚画面表示では中央の画像）に🖨（プリント）マークがつきます。

プリントマークを消すには

手順**4**でもう1度●を押します。🖨（プリント）マークが消えます。

インデックス画面表示のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンでインデックス表示画面にする。**

2 **MENUボタンを押す。**

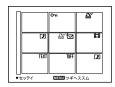
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［プリント］を選び、●を押す。**

4 **◀/▶で［選択］を選び、●を押す。**

プリントマークをつけるときは、［全画像］を選ぶことはできません。選んだ画像の枠が緑色に変わります。

5 プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、●を押す。

選択を取り消すにはもう1度●を押します。プリントしたいすべての画像について繰り返します。選んだ画像には🖨✓マークがつきます。

6 MENUボタンを押す。

メニューが表示されます。

7 ◀/▶で［実行］を選び、●を押す。

プリントマークを消すには

手順**5**でプリントマークを消したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、●を押します。

すべての画像のプリントマークを消すには

手順**4**で◀/▶で［全画像］を選び、●を押し、さらに◀/▶で［切］を選び、●を押します。

プリントマークを中止するには

手順**4**で◀/▶で［キャンセル］を、または手順**7**で◀/▶で［終了］を選んで、●を押します。

ご注意

- 動画やテキストモードやクリップモーションで撮影した画像にはプリントマークは付けられません。
- TIFFモードで撮影した画像にプリントマークを付けると、非圧縮画像のみプリントされ、同時に記録されたJPEG画像はプリントされません。
- プリントマークをつけると、ディスク残量は減ります。プリントマークを消してもさらに減ります。
- ディスク残量が少ない場合、プリントマークをつけられないことがあります。

CD-RWをフォーマットする – フォーマット

記録した画像をすべて消去するときや、本機以外でフォーマットしたCD-RWをお使いになるときに使います。

フォーマットすると、CD-RWのデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、CD-RWの内容を確認してください。フォーマットすると、そのCD-RWは自動的にイニシャライズされます。

1 フォーマットしたいCD-RWを入れる。

2 モードダイヤルを「SET UP」にする。

SET UPが表示されます。

3 ▲/▼で［ ］（ディスクツール）、▶/▲/▼で［フォーマット］の順に選び、▶を押す。

4 ▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

「フォーマット　安定した所に置いて下さい」というメッセージが出ます。

5 もう1度▲/▼で［実行］を選び、●を押す。

フォーマットを中止するには

手順**3**で▲/▼で［キャンセル］を選び、●を押します。

ご注意

- 必ずバッテリーが満充電された状態か、ACパワーアダプターから電源をとっている状態でフォーマットしてください。
- CD-Rはフォーマットできません。
- 本機以外でフォーマットしても、そのCD-RWは本機で使えません。本機で再度フォーマットしてください。
- フォーマットには約7分かかります。
- 1枚のCD-RWに対して、フォーマットは約300回が限度です。
- フォーマットすると、プロテクトをかけている画像も消去されます。

いろいろな設定を変える — SET UP

下記の項目を設定するには、モードダイヤルを「SET UP」にし、コントロールボタンで項目を選びます。

ディスクツール

項目	設定	意味
ファイナライズ	実行 キャンセル	本機でディスクに記録した画像をCD-ROMドライブで見ることができるようにする(32ページ)。 中止する。
フォーマット	実行 キャンセル	CD-RWをフォーマットする(83ページ)。 中止する。
イニシャライズ	実行 キャンセル	ディスクをイニシャライズする(17ページ)。 中止する。
アンファイナライズ	実行 キャンセル	最後に実行したファイナライズを無効にする(34ページ)。(CD-RWのみ) 中止する。

カメラ

項目	設定	意味
シーンセレクション	■ 夜景 風景 ポートレート	シーンセレクションの設定を選ぶ(58ページ)。
動画選択	■ MPEGムービー クリップモーション	動画の撮影モードを選ぶ(26ページ)。
日付/時刻	日時分 年月日 ■ 切	画像に日付や時刻を挿入するかどうか設定する(70ページ)。
デジタルズーム	■ 入 切	デジタルズームを使う(22ページ)。 デジタルズームを使わない。
ブラケット設定(MVC-CD300のみ)	±1.0EV ■ ±0.7EV ±0.3EV	露出を変えて3枚の画像を撮影するときの露出の振り幅を設定する(63ページ)。
赤目軽減	入 ■ 切	フラッシュ発光時に被写体の目が赤く写るのを抑制する(24ページ)。
AFイルミネーター	■ 入 切	暗いところで被写体にピントが合いにくいときに使用する(25ページ)。

設定1

項目	設定	意味
ファイルナンバー	連番 ■ リセット	ディスクを取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。 ディスクごとにファイル番号を0001から付ける。
コンバージョンレンズ（MVC-CD300のみ）	入 ■ 切	別売りコンバージョンレンズVCL-MHG07を使うとき[入]にする。このとき、ズームは使えません。 また、本機にコンバージョンレンズを取り付けるために必要なアダプターリングVAD-S70は一部の国と地域では販売しておりません。
言語/LANGUAGE	ENGLISH ■ 日本語／JPN	メニュー項目を英語で表示する。 メニュー項目を日本語で表示する。
時計設定	実行 キャンセル	時計を合わせ直す（13ページの手順❷以降を行う）。

[コンバージョンレンズ] が [入] のときのご注意

• シーンセレクションやズームは使えません。
• モードダイヤルが「S」か「M」になっていると、絞り値はF4以上しか選べません。
• プリセットしてあるフォーカス設定を選べません。
• マクロ撮影はできません。

設定2

項目	設定	意味
LCD明るさ	明 ■ 標準 暗	液晶画面の明るさを選ぶ（21ページ）。
LCDバックライト	明 ■ 標準	液晶バックライトの明るさを選ぶ。

設定2

項目	設定	意味
お知らせブザー	シャッター ■ 入 切	シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 音は鳴らない。
ビデオ出力信号	■ NTSC PAL	ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 ビデオ出力信号をPALモードに設定する（欧州など）。
USB接続	PTP ■ 標準	USB接続のモードを切り換える（36ページ）。
デモモード	■ 入/スタンバイ 切	外部電源使用時のみ表示される項目。お買い上げ時は、[スタンバイ]に設定されている。電源を入れ、モードダイヤルを「」または「S」、「A」、「M」、「SCN」にしたまま約10分放置すると、デモンストレーションが始まる。電源を切ると終了する。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

ディスクカバーを持って本機を運ばない

回転中のディスクに手を触れない

けがをするおそれがあります

ピックアップレンズのお手入れについて

ピックアップレンズが汚れて本機が正常に動作しなくなったときは、市販のブロアーを使ってクリーニングしてください。

お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面のお手入れについて

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください 。

海岸やほこりの多い場所で使ったあとは

カメラをよく清掃してください。潮風で金属が腐食したり、砂ぼこりが内部に入ったりすると故障の原因になります。

動作温度について

本機の動作温度は約0℃〜40℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、「結露しています」と表示され、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

ピックアップレンズについて

本機のピックアップレンズ（ディスクカバーの内側）に触れないでください。また、ほこりがつかないようにディスクを出し入れするとき以外はディスクカバーを閉じておいてください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

本機をACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切った状態にして24時間以上放置する。

ディスクの取り扱い上のご注意

ディスクは、8 cm CD-Rまたは8 cm CD-RWをお使いください。本機に対応していないディスクに画像を書き込んだり読み込んだりすることはできません。

お手入れについて

ディスクのお手入れ

- データを記録する前にディスクをクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロアーを使って吹き飛ばしてください。
- ディスクの信号記録面（印刷されていない面）に指紋やほこり、水滴、油などが付着したり、傷がついたりすると、正しいデータを記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- ディスクが汚れたときは、乾いた柔らかい布またはエチルアルコールを少量付けた柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭き取ってください。CDクリーナーもご使用になれます。
  ベンジン、シンナー、静電気防止剤、LPクリーナーなどは使用しないでください。

ご注意

- データの読み込み中、書き込み中にはディスクを取り出さないでください。
- 以下の場合、データが壊れることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中にディスクを取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気やノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- ディスクにはラベルなど、粘着性のあるものを貼らないでください。回転ムラが生じ、故障の原因になります。
- タイトルなどが記入できるのは白色のレーベル面だけです。ボールペンなどの先の硬いものは避け、油性フェルトペンで記入し、インクが乾くまでは触れないでください。加熱による乾燥は避けてください。
- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。信号記録面(印刷されていない面)には触れないでください。

- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- ディスクの外周部をこすったり、強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMドライブなどの再生機に未記録の状態でかけると誤動作を起こしたり、ディスクを傷つけたりする場合があります。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

"インフォリチウム"バッテリーは、本機や別売りACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。別売りACアダプター/チャージャーを使用すると、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機をご使用になる前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の環境で、ϟ/CHGランプが消える(満充電)まで充電することをおすすめします。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から抜くかバッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使い方

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取りつけることをおすすめします。
- ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 本機で撮影または再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安としてお使いください。
- バッテリー残量時間が約5～10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってから湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、ディスクを入れずに再生状態で電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、本機底面にあるリセットボタンを押してください。（この操作を行うと日時が解除されます。）それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。**液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。**99**ページをご覧ください。**

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーを使う（8ページ）。
	ディスクが正しく入っていない。	ディスクを正しく入れる（15ページ）。
	バッテリーが残り少ない（表示が出る）。	バッテリーを満充電する（9ページ）。
	ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。	DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（9、12ページ）。
	内部システムの誤動作。	電源を切り、1分後に電源を入れて、正しく動作するか確認する。
撮影ができない。	モードダイヤルが「▶」または「SET UP」になっている。	「」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」にする（19、26ページ）。
	ディスクが入っていない。	ディスクを入れる（15ページ）。
	ディスクがイニシャライズされていない。	ディスクをイニシャライズする（17ページ）。
フォーカスがあっていない。	3 cm～50 cm（MVC-CD200）または4 cm～50 cm（MVC-CD300）で撮影するときに、マクロ撮影モードになっていない。	• マクロ撮影モードにする（67ページ）。 • ズームWボタンで広角にする。
	［シーンセレクション］が［風景］になっている。	解除する。
	フォーカスプリセットの状態になっている。	解除する。
	［コンバージョンレンズ］が［入］になっている。（MVC-CD300のみ）	［切］にする（85ページ）。

症状	原因	処置
リサイズができない。	動画、テキスト画像、クリップモーション画像、非圧縮画像はリサイズできない。	–
プリントマークが付かない。	動画、テキスト画像、クリップモーション画像にはプリントマークを付けることができない。	ー
ノイズが入る。	テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	テレビなどから離して置く。
画像が暗い。	逆光になっている。	画像の明るさを調節する（68ページ）。
	液晶画面が暗い。	液晶画面の明るさを調節する（21ページ）。
フラッシュ撮影ができない。	設定が⊘⚡になっている。	（表示なし）または⚡に設定する（24ページ）。
	モードダイヤルが「▶」または「SET UP」、「⊞」（MPEGムービー）になっている。	「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」、「⊞」（クリップモーション）にする。
	[シーンセレクション]が[夜景]または[風景]になっている。	解除する（58ページ）。 またはフラッシュを⚡に設定する（24ページ）。
	[MODE]（撮影モード）が[3枚連写]または[ブラケット]になっている。（MVC-CD300のみ）	それ以外の設定にする。
正しい撮影日時が記録されない。	日付・時刻を合わせていない。	日付・時刻を合わせる（13ページ）。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いた画像になる。	スミアという現象で、故障ではない。	露出を－側に補正する（67ページ）。
ズームが効かない。（MVC-CD300のみ）	[コンバージョンレンズ]が[入]になっている。	[切]にする（85ページ）。
	[MPEGムービー]で動画撮影中はズームが使えない。	ー
デジタルズームが効かない。	[MPEGムービー]で動画撮影中はデジタルズームが使えない。	ー
	[デジタルズーム]が[切]になっている。	[入]にする（84ページ）。

症状	原因	処置
画像が白黒になっている。	テキストモードになっている。	通常撮影モードに戻す。
	[PFX](ピクチャーエフェクト)が[モノトーン]になっている。	ピクチャーエフェクトを解除する(70ページ)。
パソコンのCD-ROMドライブで再生できない。	ディスクがファイナライズされていない。	ディスクをファイナライズする(32ページ)。
	画像記録中の振動などでエラーが発生した。	ディスクを本機に入れて、USB接続すれば再生できる場合があります。
	• CD-ROMドライブがパケットライトに対応していない。 • CD-ROMドライブがマルチリードに対応していない。	パソコンメーカーまたはCD-ROMドライブメーカーにお問い合わせください。
	上記の原因に当てはまらないとき。	パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
画像を消去できない。	ディスクがイニシャライズされていない。	ディスクをイニシャライズする(17ページ)。
	ディスク残量がない。	故障ではない。
	プロテクトされている。	プロテクトを解除する(78ページ)。
電源が途中で切れる。	なにも操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる。	電源を入れる。
	バッテリーが消耗している。	満充電されたバッテリーを入れる。
テレビに画像が出ない。	本機の[ビデオ出力信号]の設定が正しくない。	設定を変える(86ページ)。
スライドショーが自動的に止まる。	スライドショーは約20分で止まる。	続けるときはもう1度[スタート]を選択する(74ページ)。
マクロ撮影ができない。	[シーンセレクション]が[風景]になっている。	解除する(58ページ)。
	[コンバージョンレンズ]が[入]になっている。(MVC-CD300のみ)	[切]にする(85ページ)。
テキストモードでうまく撮影できない。	被写体に均等に光が当たっていない。	均等に光を当てる。
	モードダイヤルが「S」または「A」、「M」、「SCN」になっている。	「 」にする。

その他

症状	原因	処置
パソコンとUSB接続ができない。	バッテリーが残り少ない。	ACパワーアダプターを使用してください(12ページ)。
	本機の電源が入っていない。	電源を入れる。
	USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、「USBモード」になっていることを確認する(41ページ)。
	パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	キーボード／マウス以外は取りはずしてみてください。
	USBドライバーがインストールされていない。	USBドライバーをインストールする(39ページ)。
	USBモードが[PTP]になっている。	[標準]にする(86ページ)。
	付属のCD-ROMから「USBドライバー」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、ドライブが正しく認識されていない。	正しく認識されなかったドライブを削除してから、USBドライバーをインストールする。詳しくは以下の手順にしたがってください。

Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000 ProfessionalとUSB 接続ができない場合のUSBドライバーの再インストールのしかた

手順は飛ばさないで、すべて行ってください。

1 **パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。**

2 **付属の専用USBケーブルで、本機のUSB端子とパソコンのUSB端子を接続する。**

3 **本機にディスクを入れる。**

4 **ACパワーアダプターを接続して本機の電源を入れる。**

5 **パソコンの［デバイスマネージャ］を開く。**

Windows 98、Windows 98SE、Windows Me**をお使いの場合：**

① デスクトップ画面の［マイコンピュータ］から［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする。

②“システムプロパティ”が表示されるので、上部の［デバイスマネージャ］のタブをクリックする。

③［その他のデバイス］の中の［CD Mavica］をクリックして右下の［削除（E)］ボタンをクリックする。

Windows 2000 Professionalをお使いの場合：

* AdministratorまたはAdministrator権限のユーザーIDからログインする。

①デスクトップ画面の［マイコンピュータ］から［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする。

②“システムプロパティ”が表示されるので、上部の［ハードウェア］のタブをクリックして、［デバイスマネージャ（D)］ボタンをクリックする。

③［デバイスマネージャ］の［表示］をクリックして、［デバイス（種類別）(E)］をクリックする。

④［その他のデバイス］の中の［CD Mavica］を右クリックして、［削除(E)］をクリックする。

6 デバイス削除の確認画面が表示されたら、「OK」ボタンをクリックする。

7 本機の電源を切ってからUSBケーブルを取りはずし、パソコンを再起動する。

8 付属のCD-ROMのUSBドライバーを39ページの手順でインストールする。

バッテリーパック

症状	原因	処置
バッテリーを充電できない。	本機の電源が入っている。	電源を切る（9ページ）。
バッテリーの消耗が早い。	温度が極端に低いところで撮影／再生している。	―
	充電が不充分。	満充電する。
	バッテリーそのものの寿命。	新しいバッテリーと交換する。
バッテリーの残量表示が正しくない。または、バッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。	―
	バッテリーそのものの寿命。	新しいバッテリーと交換する（8ページ）。
	バッテリーが消耗している。	満充電されたバッテリーを取り付ける（8、9ページ）。
	残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。	満充電すると、残量表示機能が正しくなる（9ページ）。
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点滅する。	バッテリーが故障している。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点灯しない。	ACパワーアダプターがはずれている。	電源をきちんと接続する（9ページ）。
	バッテリーが正しく取り付けられてない。	正しく取り付ける（8ページ）。
	充電が完了している。	―
電源が入っているのに操作できない。	―	バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。それでも操作できないときは、本機底部のリセットボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると日時が解除されます。）

警告表示について

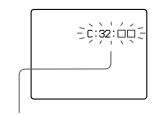
液晶画面には次のような表示が出ます。説明にしたがいチェックしてください。

表示	意味
レンズキャップが付いています	レンズキャップが付いています。
ふたが開いています	ディスクカバーが開いている。
ディスクがありません	ディスクが入っていない。
ドライブエラー	ドライブまたは本機の異常。
ディスクエラー	本機では使えないディスクが入っている。またはディスクが壊れている。
結露しています	結露が起きている。
ディスクがプロテクトされています	パソコンでプロテクトされたため、記録ができない。
ディレクトリーエラー	同じディレクトリーが存在する。
ディスクの残量が充分ではありません	ディスクの容量がいっぱいでファイナライズしかできない。
イニシャライズされていません	イニシャライズされていないため記録できない。
イニシャライズされています	すでにイニシャライズされているので、イニシャライズする必要はない。
ファイナライズされています	すでにファイナライズされているので、ファイナライズする必要はない。
ファイルがありません	画像が記録されていない。
ファイルエラー	画像再生時の異常。
画像サイズオーバーです	本機で再生できるサイズより大きい画像を再生しようとした。
無効な操作です	本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
ファイルがプロテクトされています	画像に誤消去防止がかけられている。
“インフォリチウム”バッテリーを使ってください	“インフォリチウム”対応以外のバッテリーを使っている。
バッテリーの残量が充分ではありません	バッテリーの残量が少ないためイニシャライズ・ファイナライズできない。
(バッテリー残量なし表示)	バッテリーの残量がない。
アンファイナライズできません	CD-Rが入っている。またはファイナライズされていないディスクが入っている。

その他

表示	意味
フォーマットできません	CD-Rが入っている。
フォーマットエラー	本機以外でフォーマットしたディスクを入れた。
電源を入れ直してください	レンズに異常が出ています（MVC-CD300のみ）。
(手ぶれマーク)	光量が不足しています。シャッタースピードが遅い設定になっています。

自己診断表示 – アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。
表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

- 「C:□□:□□」
  お客さま自身で正常な状態に戻せる内容
- 「E:□□:□□」
  テクニカルインフォメーションセンターに相談していただく内容

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ディスクドライブの異常。	電源を入れ直す。
C:13:□□	本機では使えないディスクを入れた。 データが壊れている。	ディスクを交換する。（15ページ）
E:61:□□ E:91:□□	お客さま自身では対応できない異常が起きている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際は、表示をすべてお知らせください。 例：E:61:10

「C:□□...」から始まる表示が出たときは、上記の操作を2、3度繰り返してください。それでも正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

主な仕様

システム
撮像素子
MVC-CD200：6.64 mm（1/2.7型）
MVC-CD300：8.93 mm（1/1.8型）
カラーCCD
レンズ
3倍ズームレンズ
MVC-CD200：f＝6.1～18.3 mm（35 mmカメラ換算では39～117 mm）
MVC-CD300：f＝7～21 mm（35 mmカメラ換算では34～102 mm）
MVC-CD200：F2.8～2.9
MVC-CD300：F2.0～2.5
露出制御
自動 、シャッター優先、絞り優先、手動
ホワイトバランス
自動、屋内、屋外、ワンプッシュ
データ方式
動画　　MPEG1
静止画　JPEG、GIF（テキストモード、クリップモーション時）、TIFF
音声付静止画
MPEG1（モノラル）
記憶媒体
8 cm CD-R/CD-RW
フラッシュ推奨撮影距離（ISO感度設定がオートのとき）
MVC-CD200： 0.3 m ～ 2.5 m
MVC-CD300： 0.3 m ～ 3 m

ドライブ
データ伝送レート
書き込み：×4倍速
読み出し：最大×8倍速
再生記録読み取り方式
非接触光学読み取り（半導体レーザー使用）
レーザー
波長：777～787 nm
NA：0.5
最大出力：23 mW
連続発光時間：600 ns

入／出力端子
A/V OUT（MONO）端子（モノラル）
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス:2.2 kΩ
ACC端子
ミニミニジャック（Ø2.5 mm）
USB端子
mini-B

液晶画面
使用液晶パネル
TFT（薄膜トランジスタアクティブマトリックス）駆動
画面サイズ
2.5型
総ドット数
123 200（560×220）ドット

電源・その他
使用バッテリー
NP-FM50（付属）
電源電圧バッテリー端子入力
7.2 V
消費電力（撮影時、LCDバックライトオン時）
MVC-CD200：3.0 W
MVC-CD300：3.5 W
動作温度
0℃ ～ ＋40℃
保存温度
–20℃ ～ ＋60℃
最大外形寸法
MVC-CD200：143×92×89 mm（幅×高さ×奥行）
MVC-CD300：143×92×94 mm（幅×高さ×奥行）
本体質量
MVC-CD200：約610 g
MVC-CD300：約650 g
（バッテリーNP-FM50、ディスク、レンズキャップなど含む）
内蔵マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン
内蔵スピーカー
ダイナミックスピーカー

ACパワーアダプターAC-L10A
電源
AC100～240 V、50/60 Hz
定格出力
DC8.4 V、1.5 A
動作温度
0℃～＋40℃
保存温度
–20℃～＋60℃
最大外形寸法
125×39×62 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量
約280 g

バッテリーNP-FM50
使用電池
リチウムイオン蓄電池
最大電圧
DC8.4 V
公称電圧
DC7.2 V
容量
8.5 Wh（1180 mAh）
動作温度
0℃ ～ ＋40℃
最大外形寸法
38.2×20.5×55.6 mm（幅×高さ×奥行）
本体質量
約76 g

付属品
ACパワーアダプターAC-L10A（1）
電源コード（1）
フェライトコア（1）
専用USBケーブル（1）
バッテリーパックNP-FM50（1）
AV接続ケーブル（1）
8 cm CDアダプター（1）
マビカディスク（2）（CD-R×1、CD-RW×1）
ショルダーストラップ（1）
レンズキャップ（1）
レンズキャップ用ひも（1）
CD-ROM（2）
取扱説明書（2）
安全のために（1）
保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラやディスクなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際交換した部品はご同意をいただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

海外で使うとき

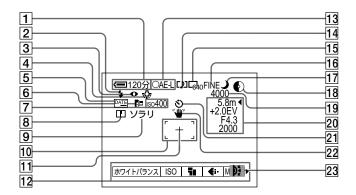
本機は外国でもお使いになれます

付属のACパワーアダプターAC-L10A**は** AC 100 V ～ 240 V・50/60 Hz**の広範囲な電源でお使いいただけます。**

ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、電源コンセントに合った変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、ご使用にならないでください。故障の原因となります。

画面表示

撮影時

1 バッテリー残量表示

2 フラッシュレベル表示／フラッシュモード表示

3 赤目軽減表示

4 ホワイトバランス表示

5 日付／時刻表示

6 AFイルミネーター表示

7 ISO設定表示

8 シャープネス表示

9 ピクチャーエフェクト表示

10 AF測距枠

11 スポット測光照準

12 メニュー
MENUボタンを押すと表示/非表示が切り換わります。

13 AE/AFロック表示

14 撮影モード／クリップモーション表示

15 画像サイズ表示

16 画質表示

17 シーンセレクション表示

18 ディスク残量表示

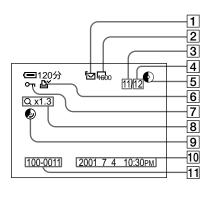
19 撮影残量枚数表示／動画／VOICE録画時間表示／自己診断表示／記録時間表示

20 手動調整表示

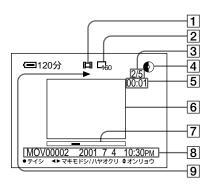
21 セルフタイマー表示

22 光量不足警告表示

23 ジョグダイヤル表示

静止画再生時

1 撮影モード／クリップモーション表示
2 画像サイズ表示
3 画像番号
4 ディスク記録枚数
5 ディスク残量表示
6 プリントマーク表示
7 プロテクト表示
8 ズーム倍率表示
9 残量回復可能表示
10 画像の記録日時表示*
11 ファイル名*

* メニューを表示しているときは消えます。

動画再生時

1 撮影モード表示
2 画像サイズ表示
3 画像番号／ディスク記録枚数
4 ディスク残量表示
5 タイムカウンター
6 再生画像
7 再生バー
8 メニューとガイドメニュー
9 再生スタート／停止表示
▶：再生中
■：停止中

その他

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット順

カスタマー登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではデジタルスチルカメラをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。
詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■カスタマー登録および登録内容の変更は
こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/di-regi/

カスタマー登録に関する問い合わせ
ソニーマーケティング（株）
カスタマー専用デスク
電話：　03-5977-7255
受付時間：月〜金曜日　午前10時〜午後6時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルスチルカメラとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
電話：　0564-62-4979
受付時間：月〜金曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

D-Imaging World (デジタルイメージングワールド)
デジタルスチルカメラやハンディカムを楽しく使っていただくためのホームページです。
http://www.sony.co.jp/di-world/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan

VOC (揮発性有機化合物）1%以下植物油インキ使用

3 0 6 7 9 5 1 0 2